

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第542集

^{うわ の}
上野 I・II・III 遺跡発掘調査報告書

一般国道342号巖美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査

2009

岩手県県南広域振興局一関総合支局土木部
(財)岩手県文化振興事業団

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書

一般国道342号巖美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県では旧石器時代をはじめとする一万箇所以上の遺跡の所在が知られており、地中には貴重な埋蔵文化財が豊富にのこされています。地域の風土が生み出したこれらの遺産は、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であるとともに、岩手県民のみならず国民的な財産といえます。現代に生きる私たちが、これらの埋蔵文化財を将来にわたって大切に保存し、その活用に力を注ぐべきであることは言うまでもありません。

一方、豊かな地域づくりのためには社会資本の整備・充実が必要不可欠であることもまた事実です。故郷の大地と共にある埋蔵文化財の保護と開発行為との調和は、現代社会に暮らしを営む私たちに与えられた大きな課題といえましょう。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を実施し、調査成果を記録化し保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一般国道342号巖美バイパス改築事業に伴い発掘調査を実施した「関市上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡」の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代中期および晩期の遺物や、近世のものと思われる屋敷跡が検出され、当該時代における当地点の様相を明らかにする考古学的資料が得られました。

本書が学術研究や教育活動などに広く活用されることにより、埋蔵文化財への理解と関心が一層深められ、ひいては埋蔵文化財保護思想の涵養に資するものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県県南広域振興局一関総合支局土木部、一関市教育委員会をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成21年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田 牧 雄

例 言

- 1 本書は岩手県一関市巖美町字上野229-1ほかにある、上野Ⅰ遺跡及び隣接地、上野Ⅱ遺跡、上野Ⅲ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における対象遺跡の登録番号は以下の通りである。

上野Ⅰ遺跡	NE95-0181
上野Ⅱ遺跡	NE95-0198
上野Ⅲ遺跡	NE95-0186
- 3 本遺跡の発掘調査は、一般国道342号巖美バイパス道路改築事業に伴い、岩手県教育委員会生涯学習文化課の調整を経て、岩手県南広域振興局・関総合支局土木部の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施したものである。
- 4 野外調査を実施した期間・調査面積・調査担当者は下記の通りである。

期 間	平成19年4月11日～平成19年8月30日
面 積	上野Ⅰ遺跡及び隣接地 3049㎡
	上野Ⅱ遺跡 2081㎡
	上野Ⅲ遺跡 1381㎡
担 当 者	村上 拓・横山寛剛
- 5 室内整理の期間と担当者は下記の通りである。

期 間	平成20年1月16日～平成20年3月31日
担 当 者	村上 拓・横山寛剛
- 6 本文の執筆は以下のとおりである。

岩手県南広域振興局・関総合支局土木部・・・Ⅰ
村上 拓・・・Ⅳ2(1)・(2)、Ⅳ3(1)・(2)、Ⅴ1・3
横山寛剛・・・Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ1、Ⅳ2(3)、Ⅳ3(3)、Ⅳ4、Ⅳ5、Ⅴ2
- 7 本書中に示した座標値は、平面直角座標第Ⅹ系(世界測地)を用いた。
- 8 各種の分析鑑定は下記の機関に委託した。

石質鑑定	花崗岩研究会
放射性炭素年代測定	株式会社加速器分析研究所
樹種同定	古代の森研究会
- 9 基準点測量業務は(株)測設計に委託した。
- 10 野外調査では下記の機関の協力を得た。(順不同)

一関市教育委員会、一関博物館、岩手県教育委員会生涯学習文化課。
- 12 今次調査で得られた出土遺物および諸記録類の一切は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過	1	3 3 区	45
		(1)概 要	45
		(2)検 出 遺 構	45
		(3)出 土 遺 物	46
II 立地と環境	1	4 4 区	51
1 遺跡の位置	1	(1)概 要	51
2 周辺の地形	3	(2)検 出 遺 構	51
3 基本層序	3	(3)出 土 遺 物	51
4 周辺の遺跡	4	5 5 区	54
III 野外調査と室内整理	5	(1)概 要	54
1 野 外 調 査	5	(2)出 土 遺 物	54
2 室 内 整 理	8	V ま と め	55
IV 検出遺構と出土遺物	9	附編1 放射性炭素年代測定	56
1 1 区	9	附編2 樹種同定	59
(1)概 要	9	報告書抄録	81
(2)検 出 遺 構	9		
(3)出 土 遺 物	12		
2 2 区	14		
(1)概 要	14		
(2)検 出 遺 構	14		
(3)出 土 遺 物	42		

図版目次

第1図 遺跡周辺の地形と遺跡分布	2	第12図 2①区堅穴状遺構2とpp71・72	26
第2図 上野I・II・III遺跡基本層序	3	第13図 2①区堅穴状遺構3と土坑1・2	27
第3図 調査区の位置とグリッド配置図	6	第14図 2②区溝跡1・2・3	28
第4図 1②区遺構配置図と溝跡1・2・3断面図	10	第15図 2②区遺構配置図	29
第5図 1③区柱穴列	11	第16図 2③区建物跡1a・2	30
第6図 1区出土遺物	13	第17図 2②区建物跡1b	31
第7図 2①区遺構配置図	21	第18図 2②区堅穴状遺構1・2	32
第8図 2①区建物跡1	22	第19図 2②区堅穴状遺構3・4	33
第9図 2①区建物跡2	23	第20図 2②区堅穴状遺構5	34
第10図 2①区建物跡3	24	第21図 2②区堅穴状遺構6、柱穴列2、溝跡1	35
第11図 2①区堅穴状遺構1	25	第22図 2区出土遺物(1)	41

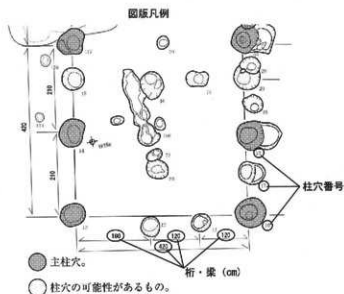
第23図	2区出土遺物(2)	42	第28図	3①区建物跡2	49
第24図	2区出土遺物(3)	43	第29図	4区全周(上)と4②区遺構配置図(下)	52
第25図	3区出土遺物	46	第30図	4区出土遺物	54
第26図	3①区遺構配置図	47	第31図	5区出土遺物	54
第27図	3①区建物跡1	48			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	4	第7表	3区出土遺物一覧	46
第2表	基準杭・区画割付杭一覧	5	第8表	3①区柱穴一覧	50
第3表	1②区柱穴一覧	12	第9表	4②区出土遺物一覧	51
第4表	1区出土遺物一覧	13	第10表	4②区柱穴一覧	53
第5表	2区柱穴一覧	36	第11表	5区出土遺物一覧	54
第6表	2区出土遺物一覧	44			

写真図版目次

写真図版1	空中写真	63	写真図版10	2①区土坑	72
写真図版2	調査開始時の状況ほか	64	写真図版11	2②区東部(1)	73
写真図版3	1区の遺構	65	写真図版12	2②区東部(2)	74
写真図版4	2①区全景	66	写真図版13	2②区西部(1)	75
写真図版5	2①区建物跡(1)	67	写真図版14	2②区西部(2)	76
写真図版6	2①区建物跡(2)	68	写真図版15	3①区、4②区、5③区	77
写真図版7	2①区竪穴状遺構(1)	69	写真図版16	1・2区出土遺物	78
写真図版8	2①区竪穴状遺構(2)	70	写真図版17	2区出土遺物	79
写真図版9	2①区溝跡	71	写真図版18	2～5区出土遺物	80



I 調査に至る経過

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡は、「道路改築事業（一般国道342号巖美バイパス工区）」の道路改良工事に伴い、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道342号は、秋田県横手市を起点とし、岩手県一関市を経由し、宮城県津山町に至る幹線道路であり、高規格幹線道路と一体的に機能する幹線道路網を定めた「岩手県広域道路整備基本計画」において、「地域形成型広域道路」に位置づけられている。また、周辺には、栗駒国立公園、須川温泉や天然記念物「巖美溪」など県内有数の観光地と、県南部の中心都市である一関市を結ぶ観光ルートにもなっている。

事業対象区域である「巖美バイパス工区」は、巖美溪に近接した幅員狭小、線形不良の隘路区間となっており、行楽シーズンには交通渋滞が発生するなど、安全で円滑な交通や沿道環境に支障をきたしていることから、バイパス及び道路拡幅により交通渋滞の緩和、歩行者の安全確保、交通の円滑化を目的とし平成7年度「道路改築事業」により着手したものである。

当事業の施工にかかわる埋蔵文化財試掘調査は、県南広域振興局一関総合支局土木部から平成18年11月29日付「総士第632号「道路改築事業にかかわる埋蔵文化財の試掘（依頼）」により岩手県教育委員会に対して依頼したものである。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成18年12月4日に試掘調査を実施し、工事に着手するためには上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成18年12月8日付教生第1232号「道路改築事業予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により土木部に回答してきた。

その結果を踏まえて土木部は教育委員会と協議し、平成19年度に財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結して発掘調査を実施することとなった。

(岩手県南広域振興局一関総合支局土木部)

II 立地と環境

1 遺跡の位置(第1図)

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の所在する一関市は、岩手県の南西部に位置する。平成17年9月20日に一関市と西磐井郡花泉町、東磐井郡大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の計7市町村が合併し新「一関市」が誕生した。合併により人口約12万人、面積約1100km²の県内で最も広い市となった。

西に栗駒山、東に室根山を擁し、東西に細長い形状を呈する。奥州藤原氏が栄華を誇った西磐井郡平泉町、国内最北の前方後円墳とされる角塚古墳を有する奥州市とは北辺で接し、同様に、東では住田町、陸前高田市、南では蕨沢町、西は秋田県東成瀬村と接している。古くより岩手県南部から宮城県北部の経済・交通・文化の中核を担ってきた都市である。

昭和22・23年のカザリン・アイオン両台風による大水害で523人の死者・行方不明者を出した旧一関市は、市街地を水害から守る一関遊水地建設事業が進む。平成10・14年に大水害に見舞われた旧東山町・旧川崎村でも、国と県による大規模な治水整備が進められている。

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡は、当市の巖美町字上野229-1ほかに位置し、一関市役所から西に約4.9kmの地点に位置する。遺跡の西には昭和2年に国指定名勝天然記念物として有名な巖美溪や、平成17年に国の史跡に指定され、平泉文化の遺産の一つとして世界遺産登録を目指す骨寺荘園遺跡がある。



第1図 遺跡周辺の地形と遺跡分布

2 周辺の地形

本遺跡は磐井川左岸の砂礫段丘上に立地する。磐井川は岩手県・宮城県・秋田県と二県にまたがる標高1,627mの栗駒山(須川岳)に端を発し、西から東へ流れ、北上川に合流する。磐井川が一関市街地である低地に入るまでに、その流域には上流から端山・本寺・山谷・巖美・赤荻と5つの平坦地(砂礫段丘)がある。本遺跡は上流から数えて4番目の巖美平坦地に立地している。磐井川はかつてこの平坦地を蛇行して流れ、現在は巖美平坦地の南側を流れている。

3 基本層序

野外調査では、遺跡内に堆積する上層の新旧関係及び各層の時期を把握するようつとめた。下図は上野I・II・III遺跡調査区の基本層序模式図である。大きくI～VI層に分けることができる。

I層 10YR2/2黒褐色シルト 現表土・耕作土 一部に盛土層・攪乱層を含む。小礫ごく微

II層 10YR3/2黒褐色～10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや有り。しまり密。

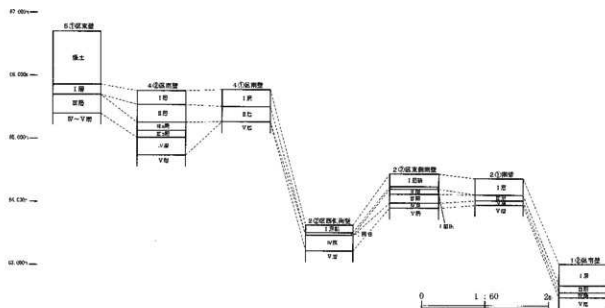
III a層 10YR2/1黒色～10YR2/2黒褐色シルト

III b層 10YR2/2黒褐色～10YR2/3黒褐色シルト 粘性弱。しまりやや粗。

10YR6/4に、おひ黄褐色～10YR6/6明黄褐色の火山灰を含む。

IV層 10YR2/1黒色シルト

V層 10YR4/4褐色～10YR4/6褐色砂質シルト



第2図 上野I・II・III遺跡基本層序

調査区は西から東に向かって傾斜している。1区と2区の東端、4区と5区の東端からは縄文土器が出土した。1・4区では縄文土器を包含する黒褐色土を埋上主体とする柱穴・土坑群が検出された。2・3・4区はほぼ全面的に水田の造成による削平を受けている。2区・3区は他の調査区よりも一段低い地形で、湧き水がひどく、常に水を掻き出さないと調査区全域が水没してしまう状態であった。

4 周辺の遺跡

遺跡の所在する一岡市内には、平成17年度現在179の遺跡が登録されている。上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡周辺を概観すると、縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡が、磐井川と久保川沿いに比較的多く分布している。しかし登録されている遺跡のほとんどが磐井川や久保川兩岸の盆地に立地していることや、周辺に縄文時代の集落遺跡がないことを考えると、丘陵部に集落遺跡の分布する可能性が非常に高いと思われる。

101は、上野Ⅰ遺跡の南東約3kmに所在する谷起島遺跡である。縄文時代晩期終末～弥生時代初期の土器型式である谷起島式の標式遺跡として知られる。昭和30年に島崎寿夫により標式資料が紹介され、1976年には初めて本格的な発掘調査が行われた。その後昭和56年までに4次調査まで行われ、多量の遺物と土坑・土甕などが見つまっている。

引用・参考文献

- 島崎寿夫 1935 「岩手県西磐井郡谷起島遺跡出土土器について」『上代文化』25
 林謙作・小田野哲彦 1977 「谷起島遺跡第一次発掘調査報告書（LOC.A）」一岡市教育委員会
 小田野哲彦ほか 1980 「第2次谷起島遺跡発掘調査概報」一岡市教育委員会
 工藤武・佐々木繁樹 1981 「第3次谷起島遺跡発掘調査概報」一岡市教育委員会
 工藤武編 1982 「第4次谷起島遺跡発掘調査概報」一岡市教育委員会

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡No.	所在地	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	NE94-0346	一岡市	沖野Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器	飯坂町上沖野Ⅰ	HD新種
2	NE96-0048	一岡市	宝蔵Ⅱ	散布地	縄文	フレーク	飯坂町上野	HD新種
3	NE95-0142	一岡市	松丁遺跡	散布地	縄文・弥生	石器、縄文土器(後期)、弥生土器	飯坂町中谷島南	
4	NE95-0151	一岡市	宝蔵	散布地	縄文	石器、石鏃、石錐、縄文土器	飯坂町宝蔵	
5	NE95-0181	一岡市	上野Ⅰ	散布地	縄文	土版、石鏃、石錐、縄文土器(後期)	飯坂町上野	
6	NE95-0189	一岡市	上野Ⅱ	散布地	縄文	石器、縄文土器	飯坂町上野	HD新種
7	NE95-0184	一岡市	上野Ⅲ	散布地	縄文	石器、縄文土器、フレーク	飯坂町上野	HD新種
8	NE95-0184	一岡市	上野Ⅳ	散布地	縄文	フレーク	飯坂町宝蔵	HD新種
9	NE95-2078	一岡市	山田	城跡跡	中世末	土甕	飯坂町山田	
10	NE95-2381	一岡市	谷起島	散布地	縄石器	打製石器	飯坂町山田	
11	OE05-0046	一岡市	溝尾	散布地	縄文	石器、石鏃、石錐、縄文土器(後期)	飯坂町岩城37	
12	OE05-0079	一岡市	羽根橋Ⅱ	散布地	縄文	石器、縄文土器(後期)	飯坂町羽根橋60	
13	OE05-0147	一岡市	小畑館	散布地	縄文	石器、石鏃、石錐、縄文土器(中・後期)	飯坂町羽根橋	
14	OE05-0171	一岡市	洞塚Ⅰ	城跡跡	中世末		飯坂町大塚	不明
15	OE05-0177	一岡市	下川台	散布地	縄文	石器、縄文土器(後期)	飯坂町川台	
16	OE05-0250	一岡市	上黒沢城 (片平跡)	城跡跡	中世	土甕、竈、漆器、大平口	飯坂町上黒沢	
17	OE05-0372	一岡市	跡ノ宮	城跡跡	中世・後	土甕、土器類、竈、他	飯坂町跡ノ宮102-1	
18	OE05-0339	一岡市	新の島集落	城跡跡	平安		飯坂町上黒沢	
19	NE95-2285	一岡市	穴ノ平	集落跡	中世	土器類、住居跡	飯坂町穴ノ平	
20	NE95-2273	一岡市	中島	散布地	平安	住居跡、土器類	飯坂町中島	
21	NE95-1270	一岡市	下袋	散布地	縄文・弥生	縄文土器(後期)、弥生土器	飯坂町下袋64	
22	NE95-2219	一岡市	松ノ木	散布地	平安	土器類	飯坂町松ノ木111	
23	NE95-2351	一岡市	小松原集落	城跡跡	平安		飯坂町谷起島	
24	NE95-2334	一岡市	口袋	散布地	弥生	弥生土器	飯坂町口袋117	
25	NE95-2366	一岡市	下平番	集落跡	中世	土器類、住居跡	飯坂町下平番	
26	NE95-1911	一岡市	穴袋塚	城跡跡	近世		飯坂町中	
27	NE95-0340	一岡市	赤新館 (日光館)	城跡跡	中世末	溝渠、空堀	飯坂町	
28	NE95-0355	一岡市	赤新館	近世		陶器	飯坂町宮田	
29	NE95-0259	一岡市	磐井朝飯堂地	散居跡	平安		飯坂町、荒谷地内	
30	NE95-0212	一岡市	田倉館	城跡跡	中世末	土甕	飯坂町福島	
31	NE95-0109	一岡市	石巻館	城跡跡	平安		飯坂町福島	
32	NE95-0149	一岡市	福島	散布地	縄文	縄文土器(後期)	飯坂町福島	
33	NE95-0338	一岡市	宮田館	城跡跡	中世末	空堀	飯坂町宮田	

Ⅲ 野外調査と室内整理

1 野外調査

(1) 調査区

登録されている上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の範囲は、東西800m、南北460m、総面積約14万8千㎡である。今回調査対象となったのは、道路改築事業によって削平を受ける範囲のうち、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘の結果から本調査を要すると判断された合計12地点である。調査区は国道342号線に沿った形で東西に細長く、総延長は約700mである。

調査では便宜上、調査区を東から順に1～5区に区分し、さらに地点ごとに○囲み数字で1区を①・②、2区を①・②、3区を①・②・③、4区を①・②、5区を①・②・③に細分した。

(2) グリッドの設定と基準点

検出される各種遺構・遺物の詳細な座標値を記録するため、調査区を覆う基準日状のグリッドを設定した。今回の調査区は、広大な遺跡範囲の中に点在している。そのため各調査区の位置関係を明確に示し、また本遺跡範囲において将来同様の調査が行われる際にそのまま用いることができるように配慮して、遺跡範囲全体を網羅するグリッド配置とした。

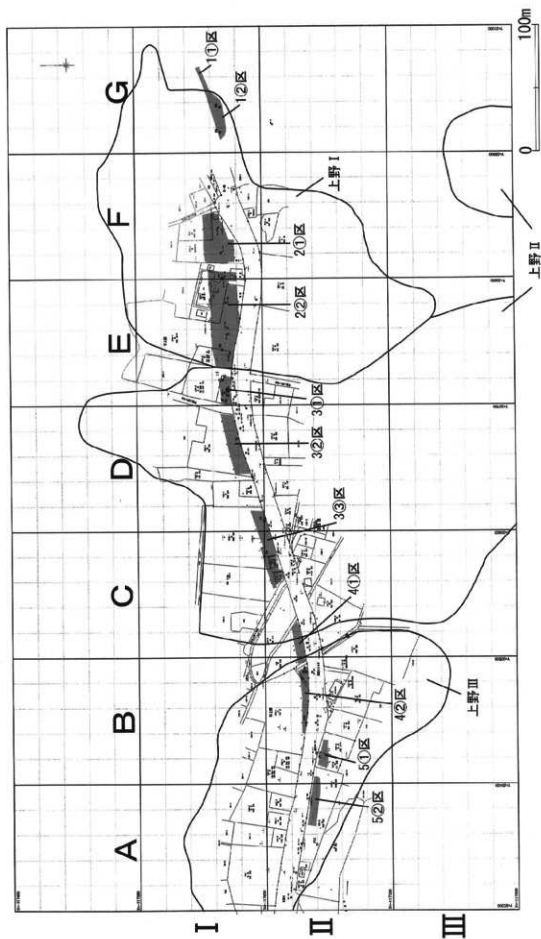
まず、遺跡範囲の北西隅付近に原点 (X=117,500m, Y=20,300m; 平面直角座標第X系【日本測地系】) を設け、ここから南及び東にのびる軸線を等分して100×100mの大グリッドを設定した。さらに大グリッドの一边を25分割して小グリッド (4×4m) とした。

大グリッドは北から南に向かってローマ数字Ⅰ・Ⅱ、西から東に向かって英大文字A～Gとして「ⅠA」または「ⅡB」のように表し、さらに小グリッドも同様に北側から順に算用数字1～25、西側から順に英小文字a～yとして「1a」または「2b」のように表した。特定の小グリッドを指し示すには、これらを組み合わせて「ⅠA1a」のように表記した。現地では各小グリッドの北西隅に位置する杭にその名称を表記して用いた。

第2表 基準杭・区画割付杭一覧

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
X	-117568.000	-117568.000	-117568.000	-117568.000	-117568.000	-117568.000
Y	20800.000	20744.000	20720.000	20704.000	20936.000	20916.000
H	64.392	64.440	64.616	64.817	62.806	62.912
杭	ⅠF18a (2②区)	ⅠE18f (2②区)	ⅠE18f (3①区)	ⅠE18b (3①区)	ⅠG18j (1②区)	ⅠG18e (1②区)

	P7	P8	P9	P10	P11	P12
X	-117600.000	-117600.000	-117632.000	-117632.000	-117640.000	-117640.000
Y	20608.000	20580.000	20488.000	20448.000	20424.000	20352.000
H	65.499	65.459	65.223	66.116	66.631	66.608
杭	ⅡD1c (3③区)	ⅡC1u (3③区)	ⅡB9W (4②区)	ⅡB9m (4②区)	ⅡB11g (5①区)	ⅡB11n (5②区)



第3図 調査区の位置とグリッド配置図

(3) 試掘・表土除去

調査では、まず対象区域に任意に試掘トレンチを設定し、人力掘削によって土層の堆積状況と遺構の存否を把握した。試掘により遺物包含層および遺構が確認された場合は、その上面を面的に広げるように土層を除去した。この際、バックホー・キャリアダンプ等の重機を積極的に用いたが、検出面までの土層が薄い場合や遺物が集中的に出土する場合など、重機の使用が適当でないと判断した区域では人力による掘削を行った。

(4) 遺構の検出と精査

表土除去の後、鋤簾（じょれん）・両刃草削り・移植ベラを用いて遺構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で遺構プランにマーキングを施した。

精査では遺構の規模に応じて2分法・4分法を使い分け、土層断面を観察しながら埋土を除去した。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で新旧関係を把握するように努め、原則として新規のものから順に埋土の掘削を行った。この場合、両者を縦断する断面を設定し土層の堆積状況からも併せて新旧関係を検討した。出土した遺物は、遺構名やグリッド名および出土層位を記録して取上げ、必要に応じて出土状況記録としての実測・撮影を行った。

(5) 遺 構 名

①野外調査での仮名称

遺構には検出時点で随時固有の仮名称を与えた。検出段階で隅丸方形のプランを早した堅状遺構は全て「SI」の略号を用い、区名と組み合わせて「SI01」のように表した。同じく溝状遺構は「SD」、土坑は「SK」、円～楕円形プランをもつ遺構には「p」の略号を用いた。

②本書中の掲載名称

遺構名は、掲載にあたって仮名称を変更し、遺構種名を冠した1からの連番とした（「溝跡1」・「土坑2」など）。一方、柱穴状ピットは改名せず「pp○」として調査時の名称をそのまま用いた。本書ではこれらの柱穴群から建物跡を構成すると思われる柱穴を抽出し、建物跡復元案として「建物跡1」のように示した。

(6) 実 測

遺構や出土状況などの平面実測は、小グリッドを再細分した1m方眼を基準に実測・作図する「簡易走り方測量」で行った。縮尺は1/20を基本とした。このほか光波トランシットを用いて、遺構配置図・現況地形図等の作成を行った。

断面図は水平に設定した水糸を基準にして実測・作図した。縮尺は1/20を基本とした。

(7) 土層断面の分層と注記

遺構やトレンチなどの土層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するよう努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連続的に互層をなす部分や、偶然的結果と思われる混入部物の偏りなどは徒らに細分せず、有意と思われるまとまりの境界を表現した。

この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録した。土層は主体土と混入土（物）によって構成されるものと考え、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の持つ性格を想定し付記した。

遺構埋上や捨て場堆積層の「主体土」には、認識可能な場合、その層が堆積した時点で周辺の表土を形成していたと思われる上（埋没開始時点における更新期の土）をあてた。例えば地山土のブロックが大平を占める遺構の壁の崩落層であっても、当時の表土と思われる黒色土が僅かに含まれている場合は、後者を主体土とし、「地山土が大量に混入している状態」と解釈している。主体土と基本土層の対比から、その層の堆積時期を推定することが可能だと考えたからである。

上色の表記は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員が受ける層間の印象の差が土色名の違いとして反映されない場合も多くあった。このため、各層の記録には調査員個人の主観による相対的な層全体の印象（明暗や色味の差）も併記した。例えば、「〇層よりも明るい」・「焼土含み全体に赤味」・「炭化物多く黒味強」・「地山土含み黄味がかかる」などの表現がこれにあたる。また混入物の量について「極微」・「やや多」等の表記を行っているが、調査員の主観的基準を土色帖に示されているパーセント表記に置き換えれば、概ね、極微（1～2%）・微（3～5%）・少（5～10%）・やや多（15～20%）・多（30～50%）・大量（50%）となるうか。

(8) 写真撮影

野外調査では6×7cm判カメラ（モノクロ）、35mm判カメラ（カラーリバーサル）、デジタルカメラを用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。撮影に際しては、撮影状況を記したカードをその都度写し込み、現像後これを元にて整理を行った。なお、一部の遺構ではいずれかのカットを省略したことがある。また、不手際によって必要なカットを撮影できなかったものも含まれる。

2 室内整理

(1) 作業手順

出土遺物の洗浄と地点別の仕分け作業、土器を除く各遺物の分類は、野外調査と並行して現地で行った。野外調査終了の後、室内において土器の接合・復元作業を開始し、随時掲載資料の選別・登録を行った。その後、実測図作成・拓影作成・トレースの順に作業を進めた。調査員はこれらの作業の統括と並行して図面合成・遺物観察表作成・原稿執筆を行った。

(2) 遺構

各遺構は必要に応じて第2原図を作成し、これをもとにトレースののち図版を作成した。図中には縮尺を示すスケールを付し、また方位マークにより座標北を示した。

(3) 遺物

土器は出土地点・遺構別に分けた後、それぞれの集合の内容を代表させる資料を選抜し、実測等の作業対象資料とした。

IV 検出遺構と出土遺物

1 1 区

(1) 概 要

1区は調査範囲全体の東端部、国道342号の南側に位置し、上野I遺跡の一部に相当する。河岸段丘の縁辺部にあたり、現況は水田及び荒蕪地であった。北側は現国道の建設時に大きく削られており境界部には擁壁が設置されている。近傍住民によれば隣接する揚水ポンプ施設の建設時に縄文土器等、多量の遺物が出土したという。

今回の調査では、時期不明の柱穴34個とこれらの一部からなる柱穴列1条、溝跡3条が検出され、縄文時代晩期中葉から末葉の土器（1箱）、石器（尖頭器・石鏃・石匙など2袋）が出土した。

(2) 検 出 遺 構（第4図、写真図版3）

①柱穴列・柱穴群

1②一柱穴列1

〔位置〕 1②西部 I G18fグリッド付近に位置する。

〔平面形・規模〕 直線状に並ぶ。東西480cm。

〔軸線方向〕 N-71°-E、N-17°-W

〔構成柱穴〕 pp11・13・20・22。

〔柱間寸法〕 150cm。

〔関連・重複遺構〕 柱穴列周辺にも多数の柱穴が検出されたが、配置構成は不明。

〔帰属年代〕 時期は不明。

②溝跡

1②一溝跡1

〔位置〕 1②東部 I G16kグリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 東西に直線状に伸びる。全長13m、幅60cm～2m、残存深度は20cmである。

〔埋土と堆積状況〕 黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の粘土ブロックが見られる。

〔出土遺物〕 1～3。

〔関連・重複遺構〕 溝跡2・3は本遺構と併存したものと思われる。

〔帰属年代〕 時期は不明。

1②一溝跡2

〔位置〕 1②東部 I G15lグリッド付近に位置する。

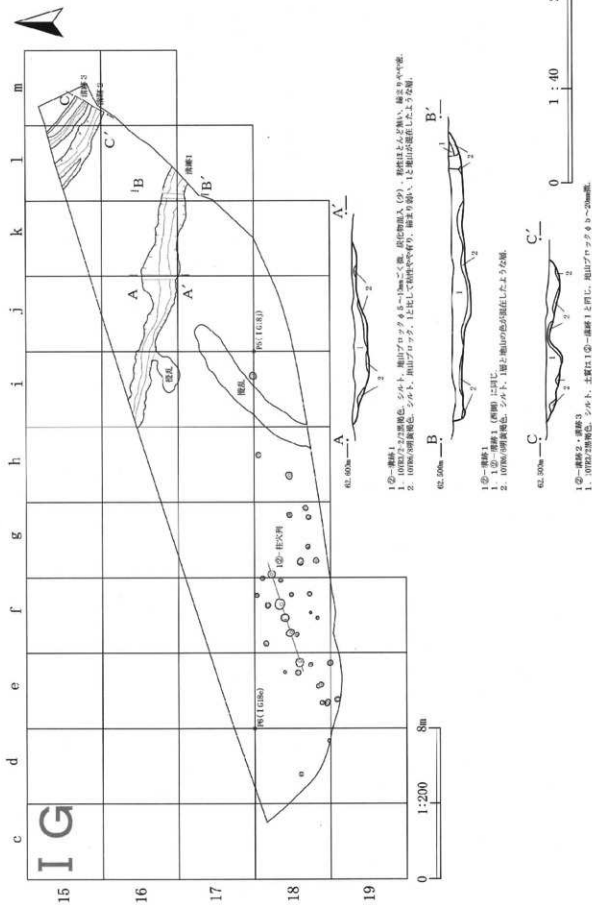
〔規模・形状〕 東西に直線状に伸びる。全長4m、幅80～140cm、残存深度は16cmである。

〔埋土と堆積状況〕 黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の粘土ブロックが見られる。

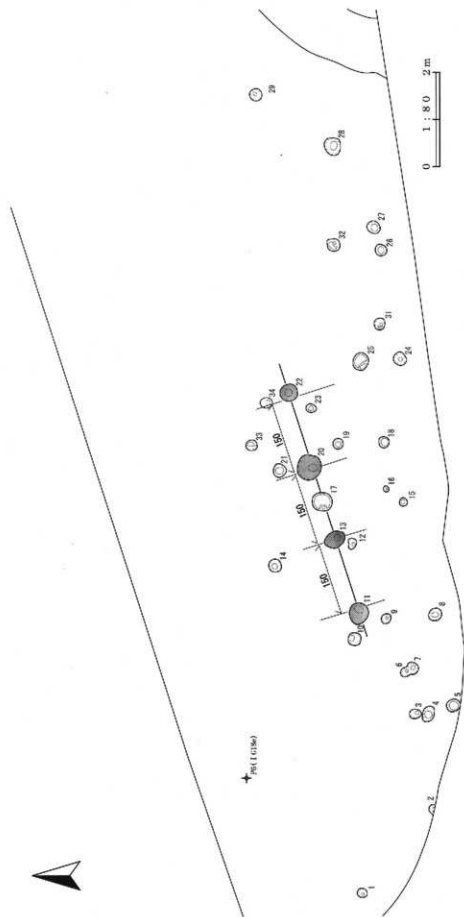
〔出土遺物〕 なし。

〔関連・重複遺構〕 溝跡1・3は本遺構と併存したものと思われる。

〔帰属年代〕 時期は不明。



第4図 1 ②区遺構配図と溝跡1.2.3断面図



第5図 1②区柱穴列

1②一溝跡3

[位置] 1②東部IG15グリッド付近に位置する。

[埋土と堆積状況] 黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の粘土ブロックが見られる。

[出土遺物] なし。

[関連・重複遺構] 溝跡1・2は本遺構と併存したものと思われる。

[帰属年代] 時期は不明。

(3) 出土遺物

1区では調査区全域から縄文土器が検出された。中でも溝1周辺のIG16g-i・17f-hグリッドに比較的集中して見られた。

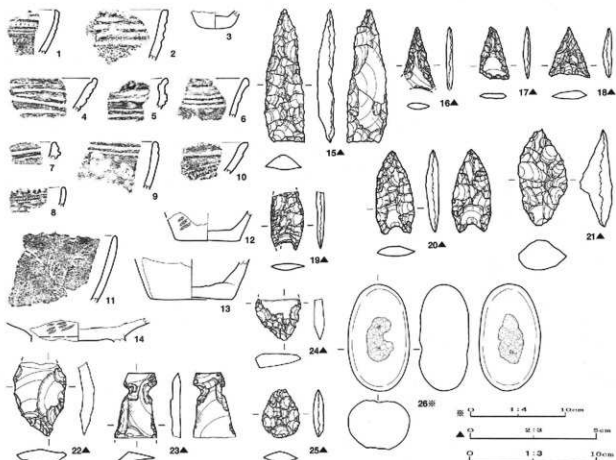
器種には深鉢(11・13)、鉢(1・2・6)、浅鉢(4)、台付鉢(14)、ミニチュア(3)がある。1と8には、口縁部に2列の裁痕がみられる。2は一形の沈線文がみられ、工字文が施されていたものと思われる。4には沈線と突起による変形工字文が施される。出土土器の大半は摩滅がひどく、特徴を把握できなかった。

出土土器は縄文時代晩期中葉から終末に位置づけられるものである。

石器には尖頭器・石鎌・石匙・凹石のほか、石器の未成品が出上した。20の石鎌の基部には、黒色の付着物が見られた。

第3表 1②区 柱穴一覧

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土			遺入物	柱礎礎 (cm)	底面レベル	埋戻遺構	層位 (積高)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック 枚						種類	図録	写真	
上野1	1②	1	IG18d	10YR2/2	シルト	ごく微		62.612							
上野1	1②	2	IG18d	10YR2/2	シルト	微		62.600							
上野1	1②	3	IG18e	10YR2/2	シルト	少		62.475							
上野1	1②	4	IG18e	10YR2/2	シルト	多		62.238				縄文土器	—	—	
上野1	1②	5	IG18e	10YR2/2	シルト	ごく微		62.528							
上野1	1②	6	IG18e	10YR2/2	シルト	ごく微		62.440							
上野1	1②	7	IG18e	10YR2/2	シルト	ごく微		62.592							
上野1	1②	8	IG18e・18e	10YR2/2	シルト	ごく微		62.468							
上野1	1②	9	IG18e	10YR2/2	シルト	微		62.482							
上野1	1②	10	IG18e	10YR2/2	シルト	微		62.497							
上野1	1②	11	IG18e	10YR2/2	シルト	微		62.480	柱穴1						
上野1	1②	12	IG18f	10YR3/1	シルト	多		62.618							
上野1	1②	13	IG18f	10YR2/2	シルト	微		62.385	柱穴1						
上野1	1②	14	IG18f	10YR2/2-2/3	シルト	微		62.650							
上野1	1②	15	IG18f	10YR3/1	シルト	多		62.588							
上野1	1②	16	IG18f	10YR2/2	シルト	微		62.456							
上野1	1②	17	IG18f	—	—	—	—	62.610	—	—	—	—	—	—	—
上野1	1②	18	IG18f	10YR2/2	シルト	微	○	62.615							
上野1	1②	19	IG18f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微		62.484							
上野1	1②	20	IG18f	10YR2/2	シルト	ごく微		62.488							
上野1	1②	21	IG18f	10YR2/2	シルト	ごく微		62.524	柱穴1						
上野1	1②	22	IG18g	10YR2/2	シルト	ごく微		62.308				縄文土器	—	—	
上野1	1②	23	IG18f	10YR2/2	シルト	ごく微		62.558	柱穴1						
上野1	1②	24	IG18g	10YR2/2	シルト	多		62.514							
上野1	1②	25	IG18g	10YR2/2-2/3	シルト	多		62.600							
上野1	1②	26	IG18g	10YR2/2-2/3	シルト	多		62.434							
上野1	1②	27	IG18g	10YR2/2	シルト	多		62.256							
上野1	1②	28	IG18h	10YR2/2	シルト	多		62.202				縄文土器	—	—	
上野1	1②	29	IG18h	10YR2/2	シルト	ごく微		62.448				縄文土器	—	—	
上野1	1②	30	IG17-18	10YR2/2-2/3	シルト	多		62.368				縄文土器	—	—	
上野1	1②	31	IG18g	10YR2/2-2/3	シルト	多		62.512							
上野1	1②	32	IG18g	10YR2/2-2/3	シルト	多		62.534							
上野1	1②	33	IG18f	10YR2/2-2/3	シルト	多		62.584							
上野1	1②	34	IG18・18g	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微		62.588				縄文土器	—	—	



第6図 1区出土遺物

第4表 1区出土遺物一覧

掲載番号	図No	区	出土地点・遺構名	器種	部位	最大径	長さ	重量	出土	特徴	図表番号	写真図版	
1	4	1区	溝1	鉢	口縁部	—	—	—	LR?	口縁部断面、数珠2列	6-1	16-1	
2	3	1区	溝1	鉢	口縁部	—	—	—	LR?	工字文	6-2	16-2	
3	8	1区	溝1	ヨシユミア	底部	φ3.8	(1.4)	φ2.8	不明	—	6-3	16-3	
4	11	1区	K017f	鉢	底部	—	—	—	不明	定形工字文、内裏沈線1条	6-4	16-4	
5	16	1区	表土	—	—	—	—	—	不明	口縁部突起、沈線4条、肩部2-2段一列の突起。	6-5	16-5	
6	10	1区	K017f	鉢	口縁部	—	—	—	RL	—	沈線3条	6-6	16-6
7	5	1区	K015n	鉢	口縁部	—	—	—	不明	—	沈線1条	6-7	16-7
9	12	1区	K017g	鉢	口縁部	—	—	—	無文	—	沈線3条	6-8	16-8
10	13	1区	K017g	鉢	口縁部	—	—	—	LR	—	沈線1条	6-9	16-9
8	17	1区	表土	—	—	—	—	—	不明	小波状口縁、数珠あり。	6-10	16-10	
11	15	1区	K017g	浅鉢?	口縁部	—	—	—	無文	—	小波状口縁、数珠(字子式?)	6-11	16-11
12	7	1区	K016c	鉢	底部	φ6.8	(2.5)	φ5.0	LR	—	—	6-12	16-12
13	14	1区	K017g	鉢	底部	φ9.0	(3.3)	φ6.4	無文	—	上付底	6-13	16-13
14	8	1区	K018n	台付鉢	底部	φ11.2	(1.8)	—	LR	—	—	6-14	16-14

掲載番号	図No	区	出土地点・遺構名	長さ	幅	厚	重量	種類	石質	産地	図表番号	写真図版
15	15	1区	K016e	5.3	1.6	0.7	5.4	尖頭器	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-15	16-15
16	7	1区	K017a	2.05	(1.70)	0.25	0.7	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-16	16-16
17	6	1区	K017g	2.15	1.20	0.20	0.6	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-17	16-17
18	1	1区	K017a	2.0	1.6	0.4	0.8	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-18	16-18
19	8	1区	K019i	(2.30)	1.20	0.30	1.3	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-19	16-19
20	14	1区	K016e	3.30	1.50	0.50	2.5	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-20	16-20
21	3	1区	K016i	3.8	1.8	1.3	6.7	石錐?	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-21	16-21
22	5	1区	表土	(2.93)	2.1	0.6	3.4	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-22	16-22
23	17	1区	表土	(2.60)	1.70	0.40	1.8	石錐	珪質頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-23	16-23
24	4	1区	K016i	(1.7)	1.6	0.6	2.1	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-24	16-24
25	2	1区	溝2+3	1.8	1.5	0.4	1.3	石錐	頁岩	美羽山脈、新生代礫第三紀	6-25	16-25
26	22	1区	K016i	11.3	6.5	5.3	555.7	卵石	安山岩	美羽山脈、新生代	6-26	16-26

2 2 区

(1) 概 要

検出遺構 柱穴287個、建物跡6棟、柱穴列2条、竪穴状遺構9棟、土坑2基、溝跡4条。

出土遺物 近世陶磁器片(1袋)、縄文時代晩期末葉土器片(1箱)、石鏃等(1袋)。

2区は調査範囲全体の東部、国道342号の北側に位置し、上野I遺跡の一部に相当する。河岸段丘上に立地しており、現況は水田・畑地・宅地の一部となっていた。調査区を横断している宅道を境に、東側を2①区、西側を2②区とした。2①区は全面に遺構が分布し、2②区では中央部を斜めに横断する低湿地を間にはさみ、その東西の微高地上に遺構の分布が確認された。

(2) 検 出 遺 構

①掘立柱建物跡・柱穴列

2①-建物跡1(第8図、写真図版5)

〔位置〕2①区西部、I F 17 g グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行840cm、梁間420cmの掘立柱建物である。

〔建物方位〕N-11°-E、N-78°-W。

〔構成柱穴〕(上) pp10・13・14・18・36・65・117・120。(可能性有) pp11・12・15~17・19・20・31・37・56・74・78・118・119。

〔柱間寸法〕桁方向は210cmを基本とし、梁方向は180cm・120cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕東面が2①-建物跡2のプランに接している。pp10・18を共有しており、両者が一連の建物である可能性がある。また、pp117~120は2①-竪穴状遺構1の埴土に切られており、本建物跡の方が古いことがわかっている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸~明治時代のものである可能性がある。

2①-建物跡2(第9図、写真図版6)

〔位置〕2①区中央部、I F 18 h グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行540cm、梁間450cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-14°-E、N-76°-W。

〔構成柱穴〕(上) pp7・10・18・27・29・33・127・129。(可能性有) pp8・9・19・21・22・23・26・66・82・83。

〔柱間寸法〕桁方向は180cmを基本とし、梁方向は180cm・150cm・90cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕2①-建物跡1のプランに接している。pp10・18を共有しており、両者が一連の建物である可能性がある。プランの北半部中央には2①-土坑1、2①-土坑2が位置しており、本建物跡に付属するものの可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸~明治時代のものである可能性がある。

2①-建物跡3(第10図、写真図版6)

〔位置〕2①区北東端部、I F 15 l グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行600cm、梁間480cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-85°-E、N-4°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉 pp95・131・135・63・61・59・60・130・62・104。〈可能性有〉 pp57・69・67・64・68・137。

〔柱間寸法〕桁方向は210cm・180cm、梁方向は300cm・180cm・120cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕南辺の柱穴pp131・132・134が、2①-堅穴状遺構3の埋土に切られている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-建物跡1a (第16図、写真図版11)

〔位置〕2②区北東部、I E16y グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行600cm以上、梁間420cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-11°-E、N-81°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉 pp20・26・28・39・67・73・75。〈可能性有〉 pp10・27a・33・71・74。

〔柱間寸法〕桁方向は90cm・180cm・240cm、梁方向は210cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕東西辺の桁方向の柱穴列が、2②-建物跡1bのそれと同一線上に配列されている。両者は規模も共通しており、同一位置への建て替えが行われた可能性がある。新旧関係は確認できなかった。また、南側には軸方向を揃えて2②-建物跡2が隣接する。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-建物跡1b (第17図、写真図版11)

〔位置〕2②区北東部、I E16y グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行630cm以上、梁間420cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-9°-E、N-81°-W。

〔構成柱穴〕〈E〉 pp19・25・27b・29・40・76・81・86。〈可能性有〉 pp22・34・36。

〔柱間寸法〕桁方向は210cm、梁方向は180cm・240cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕東西辺の桁方向の柱穴列が、2②-建物跡1aのそれと同一線上に配列されている。両者は規模も共通しており、同一位置への建て替えが行われた可能性がある。新旧関係は確認できなかった。また、南側には軸方向を揃えて2②-建物跡2が隣接する。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-建物跡2 (第16図、写真図版12)

〔位置〕2②区北東部、I E17y グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行450cm、梁間270cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-11°-E、N-82°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉 pp11・15・17・18・38・42・48b。〈可能性有〉 pp22・34・36。

〔柱間寸法〕桁方向は150cm、梁方向は120cm・150cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕北側には軸方向を揃えて2③-建物跡1a・同1bが隣接する。プラン南部には2②-柱穴列1が重複する。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-柱穴列1 (第18図、写真図版12)

〔位置〕2②区東部中央、I E18x グリッド付近に位置する。

〔平面形・規模〕南東部にコーナーを持つL字状に配置されている。東西列600cm、南北列210cmである。

〔軸線方位〕N-11°-E（南北列）、N-79°-W（東西列）。

〔構成柱穴〕〈主〉pp41、44、46、47、51、53、56。〈可能性有〉pp54。

〔柱間寸法〕東西列は200cm、南北列は70cmである。

〔関連・重複遺構〕南北列の北半部が2②-建物跡2のプランに重複している。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-柱穴列2（第21図、写真図版13）

〔位置〕2②区西部南西、I E 19 i グリッド付近に位置する。

〔平面形・規模〕東西、南北方向に並ぶ柱穴がクランク状に配置されている。約8m四方の範囲に展開している。

〔軸線方位〕N-11°-E（pp2～pp12間）、N-78°-W（pp91～pp97間）、N-15°-E（pp97～pp98）、N-73°-W（pp98～pp100）。

〔構成柱穴〕〈主〉pp91・93・95・97・98・100a・100b・101・131。〈可能性有〉pp90・94・96・130。

〔柱間寸法〕150cm、200cm、250cmなどが見られる。

〔関連・重複遺構〕2②-溝跡1aの西縁および溝跡1cの北縁に沿って配置されている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

②堅穴状遺構

2①-堅穴状遺構1（第11図、写真図版7）

〔位置〕2①区西部、I F 16 g グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕330×300cmの隅丸方形の掘り込みの南壁側に不整形なスロープ状の張り出し部を持つ。張り出し部をあわせた最大長は460cmである。底面までの残存深度は20cmである。底面中央部はほぼ平坦に整っており、壁は底面から自然に連続し緩やかに立ち上がる。

また堅穴の南半部を両ようコ字状に配された柱穴列を伴う。径20～25cm程度、深さが64cm前後の小規模で浅い柱穴8個からなる。柱間は東西辺が200cm、南辺が100cm及び200cmである。

〔軸線方位〕N-14°-E（柱穴列南北方向）、N-75°-W（柱穴列東西方向）。

〔埋土と堆積状況〕堅穴の堆積土は、上部から流入したと思われる黒褐色シルトを主体とし、全体に均質な性状を呈する。床面付近からは大形礫（径40cm前後）がまとまって出土している。

〔関連・重複遺構〕本遺構の堅穴の埋土はpp117・119・120を切っており、本遺構が2①-建物跡1より新しいことがわかっている。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物と年代測定結果から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-堅穴状遺構2（第12図、写真図版8）

〔位置〕2①区中央北部、I F 15 i グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕300×270cmの方形を基調とするが、北東隅のみが内側に張り出している。同様の張り出しは2②-堅穴状遺構2の南西隅にも認められる。底面までの残存深度は16cmである。底面は全体が平坦に整い、壁は外傾して立ち上がる。またこの堅穴は四辺に沿って420×400cmの方形に配された柱穴列を伴っている。上部構造物の痕跡とみられる。主たる柱穴は径45cm程度の6個（pp48・49・

50・53・54・71)で、深さは64cm前後、いずれも径約20cmほどの柱材が残存していた。pp54の柱材は鑑定によりクリであることが判明している。このほかpp51・52・55・121・122・123もまた本遺構に帰属する柱穴と見られる。

〔軸線方位〕N-80°-E(柱穴列東西方向)、N-12°-W(柱穴列南北方向)。

〔埋土と堆積状況〕堅穴の堆積土は上部から流入したと思われる黒褐色シルトが主体で、全体に均質な性状を呈する。

〔関連・重複遺構〕本遺構の北東隅に近接する大型柱穴pp72は、pp71に切られていることから本遺構より古い。pp72は本遺構よりも大規模な構造物に帰属する可能性が高いが、これに関連するその他の柱穴は検出されなかった。調査区外(北側)に存在する可能性が高いと思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出上遺物と年代測定結果から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①一堅穴状遺構3(第13図、写真図版7)

〔位置〕2①区東端部、I F 16mグリッドに位置する。

〔規模・形状〕500×160cmの長楕円形を呈する。底面までの残存深度は20cmである。底面は全体に平坦で壁は外傾して緩やかに立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕埋土は黒褐色シルトを主体とする。下部はグライ化し上部に酸化鉄斑が発達する。埋土の上部は南隣の流れ井戸の底面へ連続している。

〔関連・重複遺構〕2①-建物跡3の南辺柱穴pp131・132・134を切っている。また両側には現代になって埋められた「流れ井戸」が隣接し、堆積状況から本遺構と併存した時期があるものと思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出上遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一堅穴状遺構1(第18図、写真図版12)

〔位置〕2②区東部中央、I E 19wグリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕平面形は270×230cmの隅丸方形を呈し、底面までの残存深度は12cmである。底面は全体が平坦に整い、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルトを主体とする。壁際と底面の一部に地山ブロックを含む堆積土が見られるが、全体的には均質な性状を呈する。

〔関連・重複遺構〕北西隅にpp58が重複するが新旧関係は不明である。また、北側に2②-柱穴列1が近接する。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出上遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一堅穴状遺構2(第18図、写真図版12)

〔位置〕2②区東部南端、I E 20wグリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕南辺部が調査区外にあり全形は不明であるが、東西380cm、南北380cm以上の隅丸方形を呈するものと思われる。残存深度は20cmで、底面は全体が平坦に整い壁は外傾して立ち上がる。なお北西隅には内側に向かって張り出す棚状の高まりが作り出されている。2①-堅穴状遺構2の北東隅の張り出しに類似するものである。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルトを主体とする。断面A-A'の西側には1・2層が3層を切って立ち上がる様子がみられることから、新旧の掘り込みが重複している可能性がある。

〔関連・重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一竪穴状遺構3（第19図、写真図版12）

〔位置〕2②区東部東端、I F 19 a グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕225×118cmの楕円形を呈する。底面は平坦で北側のみステップ状に一段高くなっており、壁は外傾して立ち上がる。検出面からの残存深度は12cmである。

〔埋土と堆積状況〕黒色～黒褐色シルトを主体とする単層である。

〔関連・重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一竪穴状遺構4（第19図、写真図版14）

〔位置〕2②区西部北西端、I E 17 i グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕平面形は314×235cmの不整楕円形であるが、南半部には直線的な壁と丸みを持ったコーナーが認められることから本来は隅丸方形であった可能性が高いと思われる。底面までの残存深度は19cmである。底面は北西部が低くそれに向かってなだらかに傾斜している。壁は南・西側が明瞭に立ち上がるのに対し、北・東側では不明瞭である。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルトが主体。埋土は均質の単層で、底面に酸化鉄斑が発達する。

〔関連・重複遺構〕南壁東部に2②-溝跡1 b が重複している。新旧関係は不明で併存した可能性もある。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一竪穴状遺構5（第20図、写真図版14）

〔位置〕2②区西部中央、I E 17 j グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕竪穴は264×210cmの不整隅丸長方形を呈する。床面中央のやや西寄りには128×116cmの楕円形の範囲が約10cmほど深くなっている。底面は特に壁際でやや凹凸が目立つ。またこの竪穴の周囲からは、上部構造物の痕跡とみられる500×300cmの長方形に配された柱穴列が見ついている。主たる柱穴は径35cm程度の8個（pp103・106・111・114・118・120・137・143・147）で、このほかpp110b・104・108・112・116・117・138などもまた本遺構に帰属する柱穴と見られる。竪穴は柱穴列に囲まれた範囲の東に偏っているが、底面内部の楕円形掘り込み部は、柱穴範囲の中心（南北）軸上に位置している。

〔軸線方位〕N-9°-E（柱穴列南北方向）、N-81°-W（柱穴列東西方向）。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルトが主体で、下部は粘土質を帯びる。上方からの自然流入土により埋没したものと思われる。

〔関連・重複遺構〕柱穴列の西辺は2②-溝跡1 a～dによって区画された長方形範囲の東縁に平行して接している。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一竪穴状遺構6（第21図、写真図版14）

〔位置〕2②区西部中央南端、I F 19 i グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕全体に隅丸長方形を呈するものと思われるが南端は調査区外に延び、東壁は攪乱によって乱されているため本来の形状は不明である。調査区内における規模は245×140cmである。底面までの残存深度は9cm。底面は全体が平坦に整い、残存する西・北壁は外傾して緩やかに立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色の粘土質シルトを主体とした、均質な単層である。

〔関連・重複遺構〕西壁南部に2②溝跡1cが接続する。また西壁の延長線上を溝跡1dが走行している。溝跡1cとは埋土が連続していることから、溝跡1と本遺構は併存したものと思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

③土坑

2①-土坑1 (第13図、写真図版10)

〔位置〕2①区中央部、I F 17h グリッドに位置する。

〔規模・形状〕径100cmほどの円形を呈する。底面までの残存深度は14cmである。底面には径約70cmの環状をなす小溝が認められる。

〔埋土と堆積状況〕埋土の主体は黒褐色シルト。底面に残る環状の小溝には木質物の小片が多く見られることから、桶状の埋設物が設置された痕跡と考えられる。1層は桶状の埋設物の内部堆積物、2層は埋設時の掘り形埋土であるとみられる。1層下面すなわち埋設物内部底面からは多量の礫が出土した。

〔関連・重複遺構〕2①-土坑2と近接・並列する。この2基の土坑は2①-建物跡2のプラン内部に位置しており、当該建物跡に付属する可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-土坑2 (第13図、写真図版10)

〔位置〕2①区中央部、I F 17h グリッドに位置する。

〔規模・形状〕径90cmほどの円形を呈する。底面までの残存深度は8cmである。

〔埋土と堆積状況〕埋土の主体は黒褐色シルト。底面に環状の痕跡は持たないが、埋土の様相は隣接の土坑1と同じである。1層が埋設物の痕跡である可能性がある。

〔関連・重複遺構〕2①-土坑1と近接・並列する。この2基の土坑は2①-建物跡2のプラン内部に位置しており、当該建物跡に付属する可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

④溝跡

2①-溝跡1 (第7図、写真図版9)

〔位置〕2①区中央～北東部、I F 14h～同17i～同16n グリッドに位置する。

〔規模・形状〕当区北東部を区画するようにL字状に検出された。I F 17i グリッド杭付近を隅とし、西辺の北端は同14h グリッド、南辺の東端は16n グリッドで調査区外へと延びている。調査区内における西辺の全長は約11m、南辺は21mである。南辺では壁上部が緩く開いているが、下部には幅40～50cm、深さ15～20cmほどのしっかりした掘り込みが全体を通して認められ築研状を呈している。走行方向は西辺がN-13°-W、南辺がN-87°-E。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の砂層が見られる。

〔関連・重複遺構〕南辺中央部の北壁には2①-溝跡2が接し、東端部は廃絶が現代に下る「流れ井

戸」に連続している。また、本溝跡による区画の内部には2①-建物跡3、2①-竪穴状遺構2・3が位置する。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-溝跡2 (第14図、写真図版9)

〔位置〕2①区東部、I F 16 k グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長さ175cm、幅75cm、深さは22cmで、薬研状の断面を呈する。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルト主体の埋土が、2①-溝跡1内に連続して堆積している。

〔関連・重複遺構〕2①-溝跡1南辺中央の北壁に直交するよう接している。埋土が連続することから両者は併存したと思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-溝跡3 (第14図、写真図版9)

〔位置〕2①区中央南部、I F 18 i グリッドに位置する。

〔規模・形状〕隅丸のL字状を呈する。全長540m、幅20～40cm、残存深度は5cm前後である。底面には小規模な凹凸が連続してみられる。竪穴住居跡の周溝に似た印象をもつ。

〔埋土と堆積状況〕黒色シルトの単層。周辺遺構の埋土より暗く緻密な土層である。

〔関連・重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、埋土等から周辺の遺構より古いものとみられる。

2②-溝跡1 (a～d) (第21図、写真図版13)

〔位置〕2②区西部西側、I E 17 i ～同19 i グリッドに位置する。

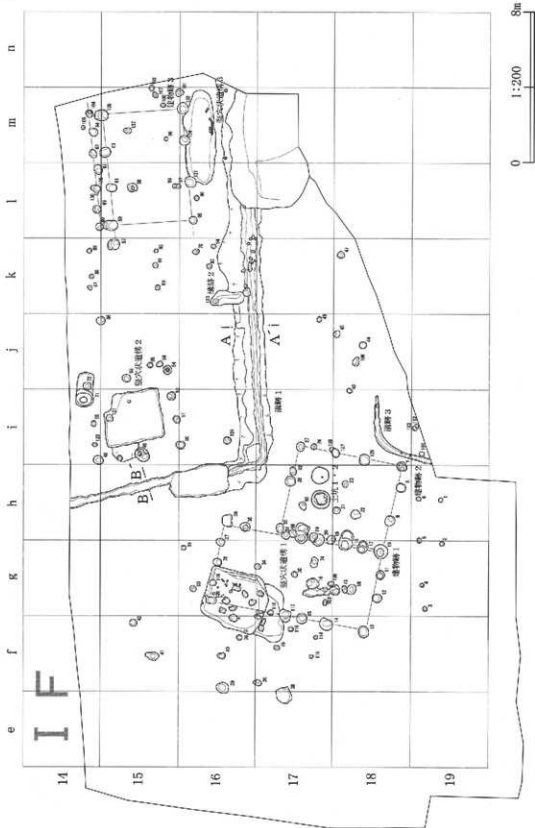
〔規模・形状〕削平によって消失した部分もあり全体の様子が明らかではないが、2②区西部西半部の遺構空白域の外周を区画するよう長方形に走行するものと見られる。区画範囲は12.0×4.5mほどである。溝はT字状に接する2条と2つの残欠部からなり、それぞれにa～dの補名を付した。区画の西辺をなす2②-溝跡1 a は長さ720cm、幅50cm前後で南端は調査区外に伸びている。北端で途切れた1 a の延長上には残欠と見られる1 b (長さ80cm・幅25cm前後) が認められ、北端が2②-竪穴状遺構4に連続している。また、1 a の南端近くの東壁には、区画南辺をなす溝跡1 c が直交方向に接している。溝跡1 c は長さ390cm、幅60cm前後で東端に2②-竪穴状遺構6が接している。竪穴状遺構6の西辺の北側延長上にはやはり残欠と見られる1 d (長さ250cm・幅25cm前後) が観察される。1 d は、2②-竪穴状遺構5に伴う長方形柱穴列の西辺南部に平行して接しており、区画東辺をなすものと見られる。走行方向は1 a (西辺) がN-13°-E、1 c (南辺) がN-77°-W。深さは溝跡1 a 中央付近で5cm、1 c 中央付近で12cmで、南に向かって傾斜していることがわかる。

〔埋土と堆積状況〕緻密な黒褐色シルトを主体とする単層である。

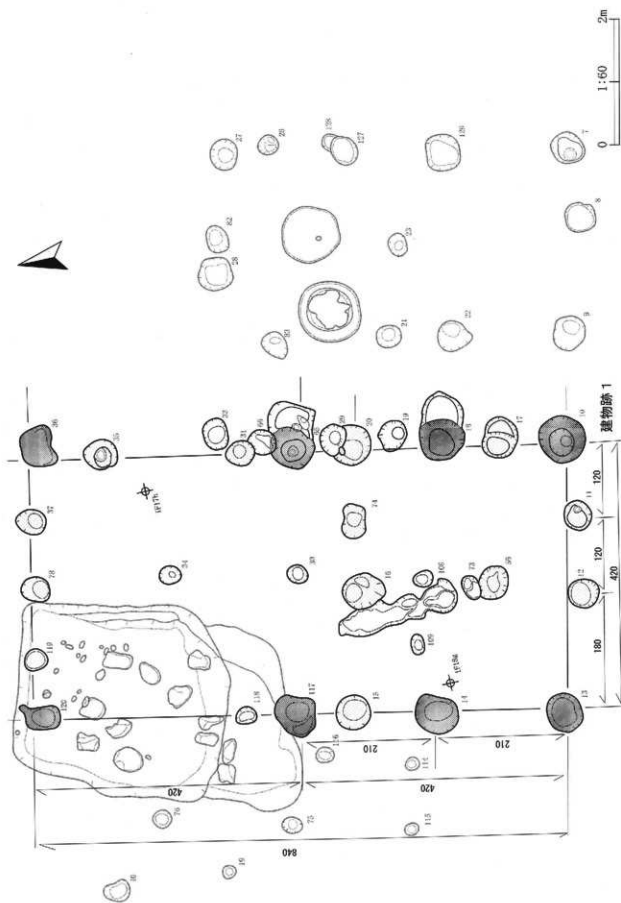
〔関連・重複遺構〕上述の通り、2②-竪穴状遺構4及び同6と重複し、同5関連の柱穴列に近接・平行している。また2②-柱穴列2が溝跡1 a 西縁、1 b 北縁に沿って配置されている。埋土や配置から見て、これらは併存した可能性が高いと思われる。

〔出土遺物〕なし。

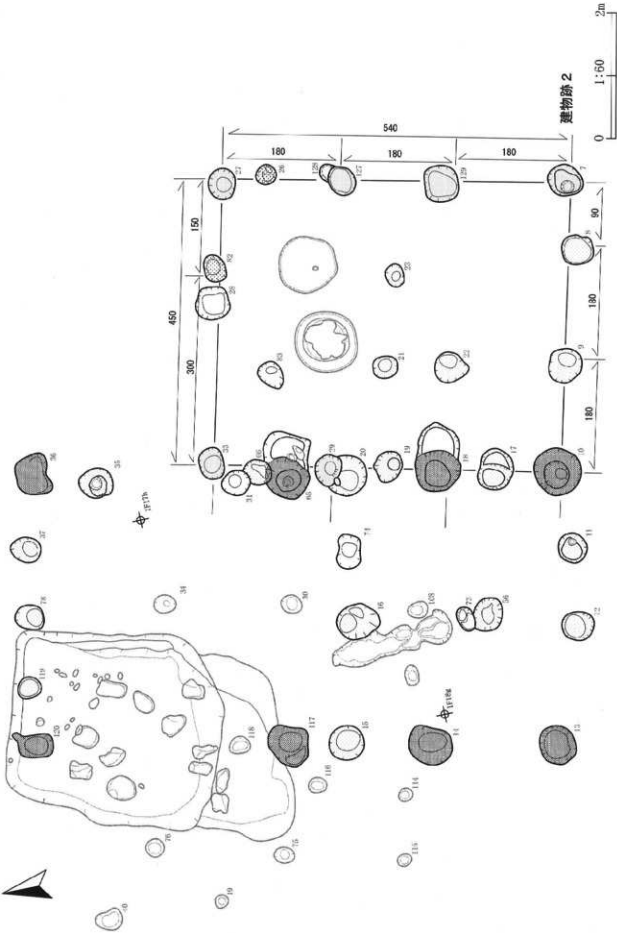
〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。



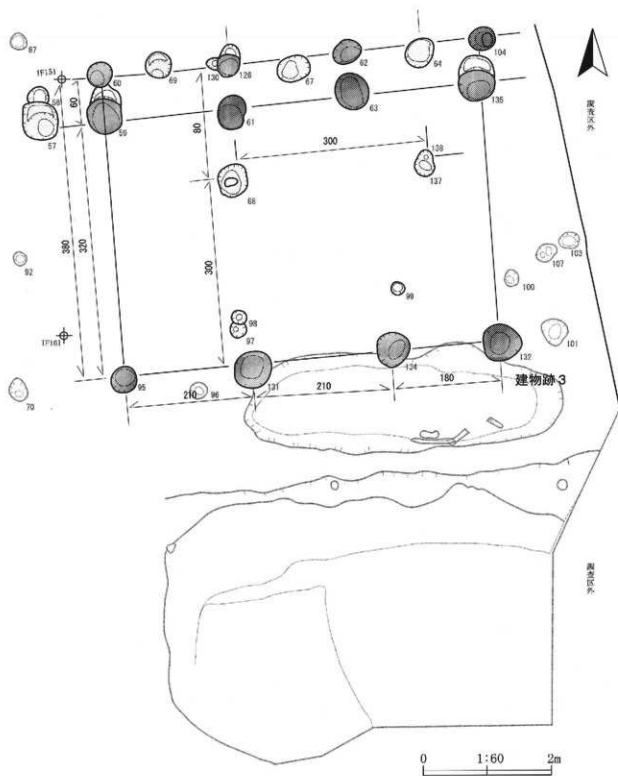
第7図 2区遺構配置図



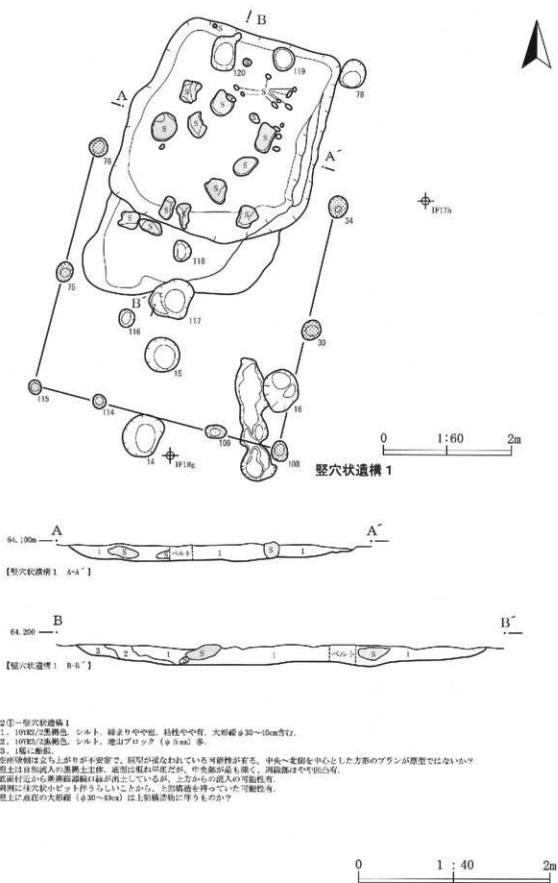
第8圖 2①区建物跡1



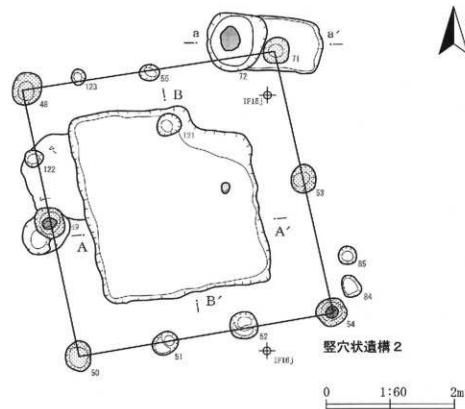
第9図 2①区建物跡2



第10图 2①区建物跡3



第11図 2①区竪穴状遺構1



【竪穴状遺構 2 A-A'】



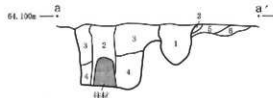
【竪穴状遺構 2 B-B'】

2①-竪穴状遺構 2

1. 10Y2/2黒褐色、シルト、崩まりややぶ、粘性ややぶ。

※平面形状は方形に近いが北東コーナー部が内側に傾り出したL字のような形状となっている。

加えて、西壁側壁には外に傾り出した部分をもつ、瓦礫を何の残る柱穴に囲まれており、上部構造を持つものと推測される。



2①-柱穴pp71・pp72

1. 10Y2/3黒褐色、シルト、地山ブロック (a 5~10m) を全体に均質に少量含む。

2. 10Y2/3黒褐色、シルト、1層に腐植 (P7 2粒或)。

3. 10Y2/2黒褐色、シルト、地山ブロック (a 30~30m) 産、上下につぶされたように横に広がっている。

4. 10Y2/2黒褐色~2/1黒色、シルト、3層によく似るがやややぶい。

5. 10Y2/4黒褐色、粘土質シルト、地山ブロック産。

6. 10Y2/2黒褐色、シルト、3層によく似る。

※1層はpp71層上。2~6層はpp72。

第12図 2①区竪穴状遺構 2 と pp71・72

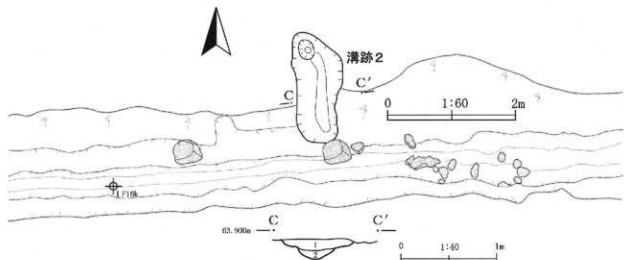
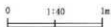


2①-溝跡1

1. 10YR2/2-2/2黒褐色、シルト、粘性弱、筋まりやや密。
 2. 10YR3/1黒褐色-2/1黒色、シルト、土層によく似る。1層のグライ化部。
 溝跡1は、陥穴状遺構2、環状遺構3等が分布する区域の周辺及び
 周辺を穿通しているL字状の溝である。周辺に土層断面がみられる。
 溝の可能性も有るか？東端部は流れ井戸へと連続している。

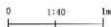
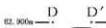
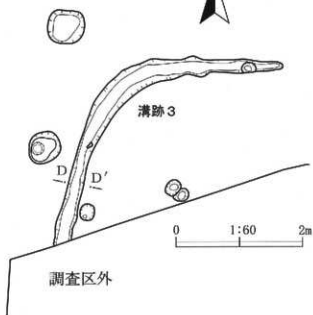
2②-溝跡1

1. 10YR2/2-2/2黒褐色、シルト、池山形下部に多。
 赤土辺では底面の凹凸多。



2①-溝跡2

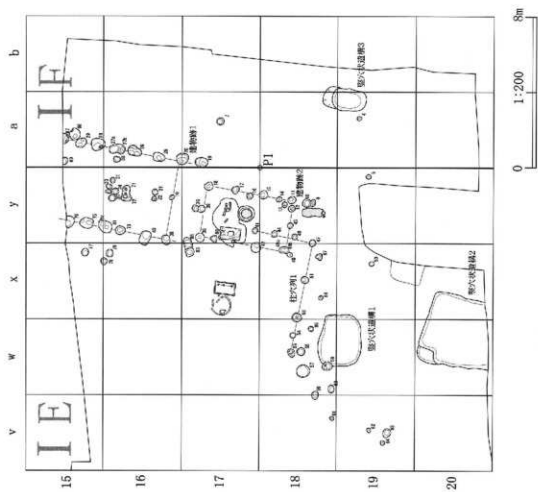
1・2. 2①-溝跡1同じ。
 赤土層2は溝跡1に直交して合流する短L溝状遺構、溝でない可能性も有。



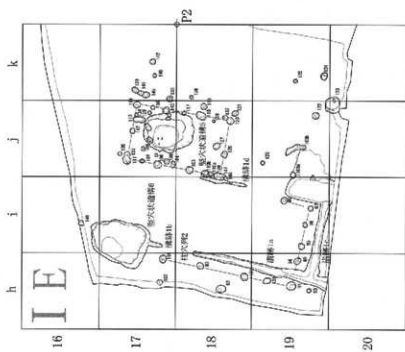
2①-溝跡3

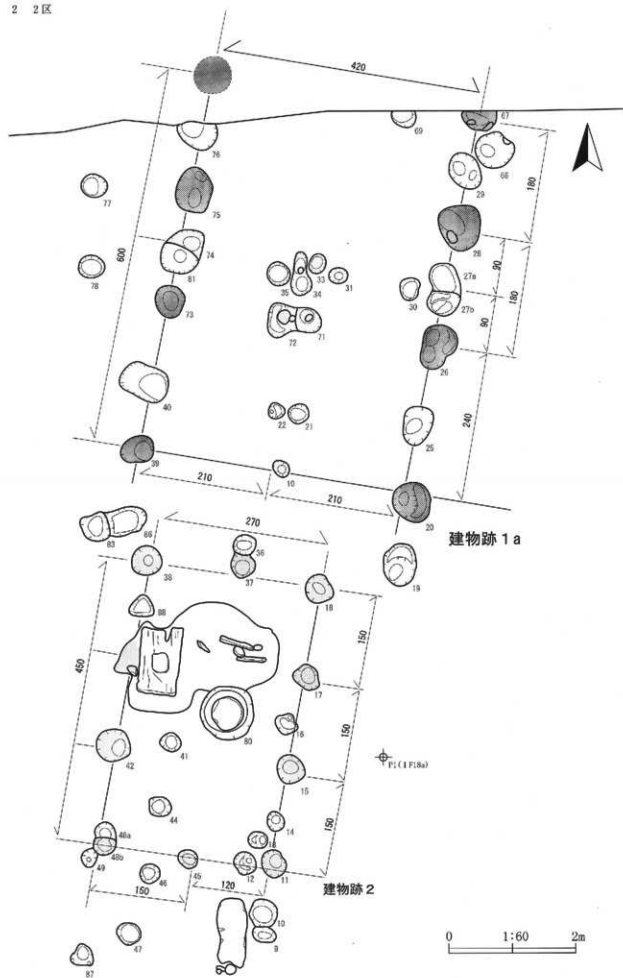
1. 10YR2/1黒褐色-2/1黒色、シルト、筋まり密、粘性やや有。
 赤土水の痕跡なく。溝跡1・溝跡2とは異質。溝一言いふも...
 断面凹凸目立つ。溝内のL字状に走行、南端は溝跡2外。
 両端は陥穴。(この周辺で土層断面分布)

第14図 2②区溝跡1・2・3

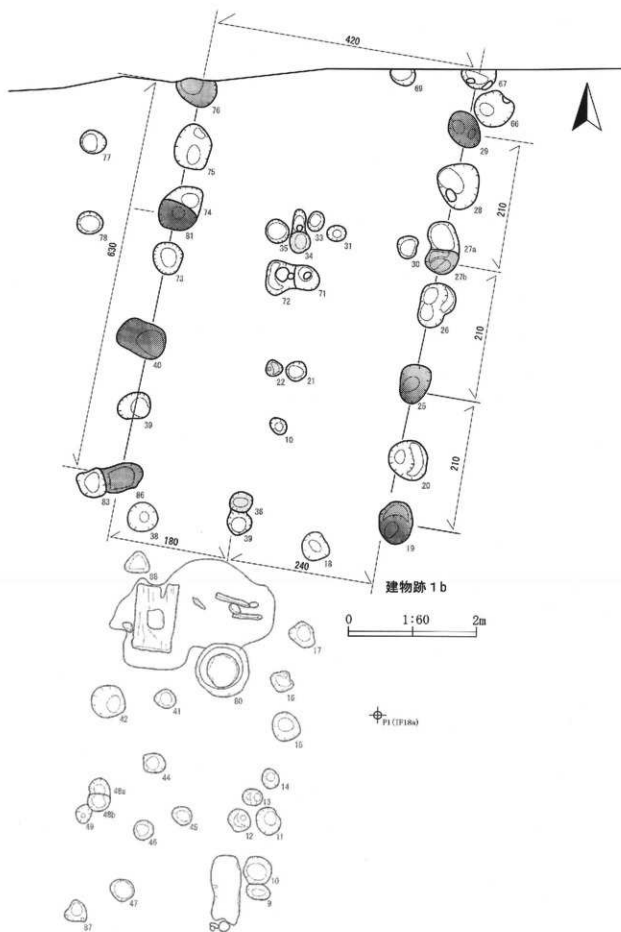


第15図 2区遺構配置図

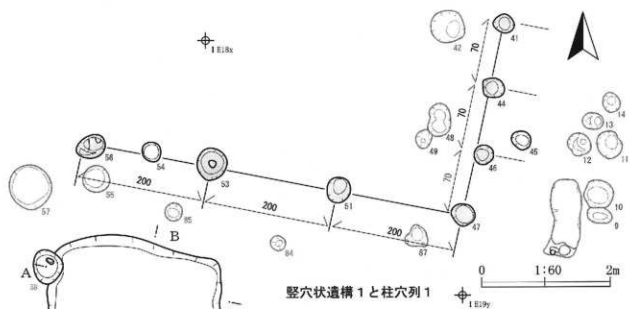




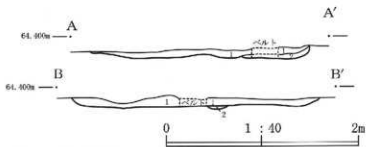
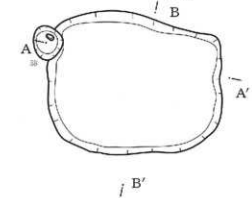
第16図 2②区建物跡1a・2



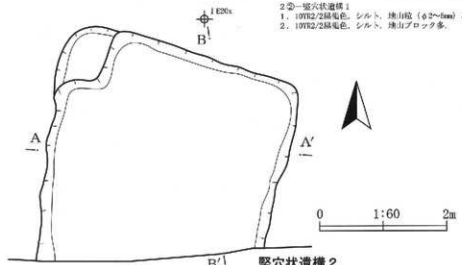
第17図 2②区建物跡1b



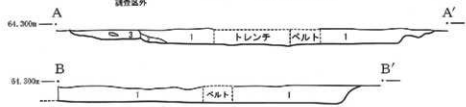
竪穴状遺構1と柱穴列1



2②一竪穴状遺構1
1. 10YR2/2黒褐色、シルト、粘土粒(φ2~4mm)ごく稀。
2. 10YR2/2黒褐色、シルト、粘土ブロック多。

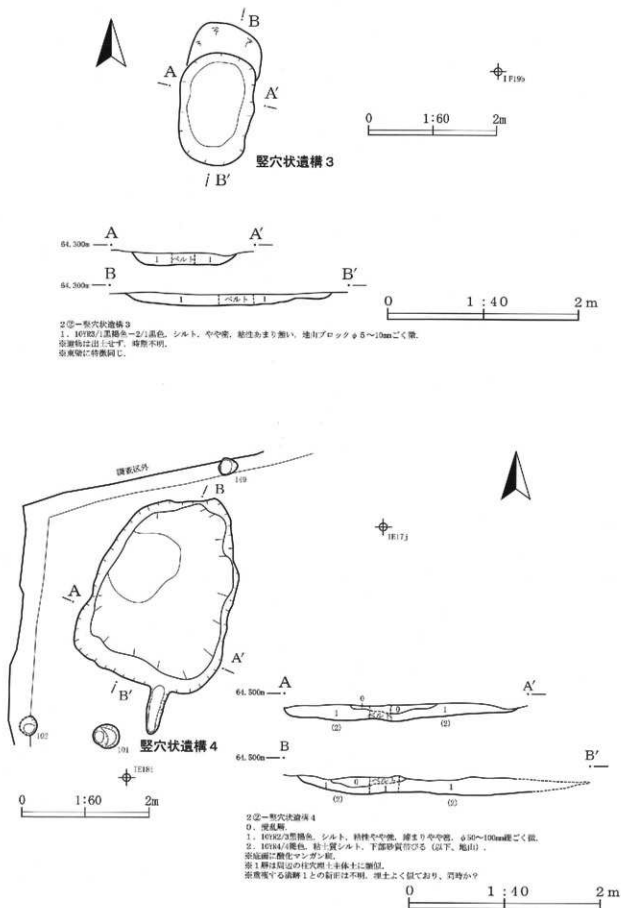


竪穴状遺構2

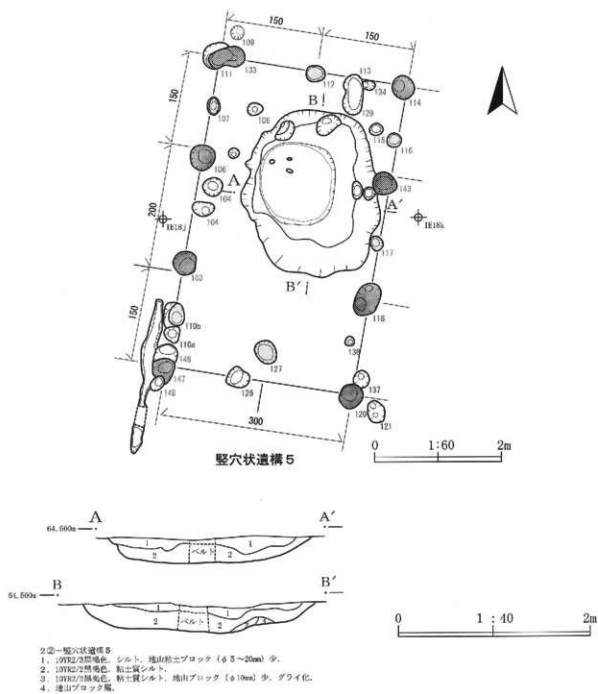


2②一竪穴状遺構2
1. 10YR2/3黒褐色、シルト、粘性やや有、粘まりやや有。
2. 10YR2/3黒褐色、シルト、粘土ブロック多。
3. 10YR2/3黒褐色、シルト、粘土ブロック量。
※1層2層は裏面取り込み、3層は1層。
※光線照は西壁側表面が一際高くアラス状、腐敗あるため、残りが古い。

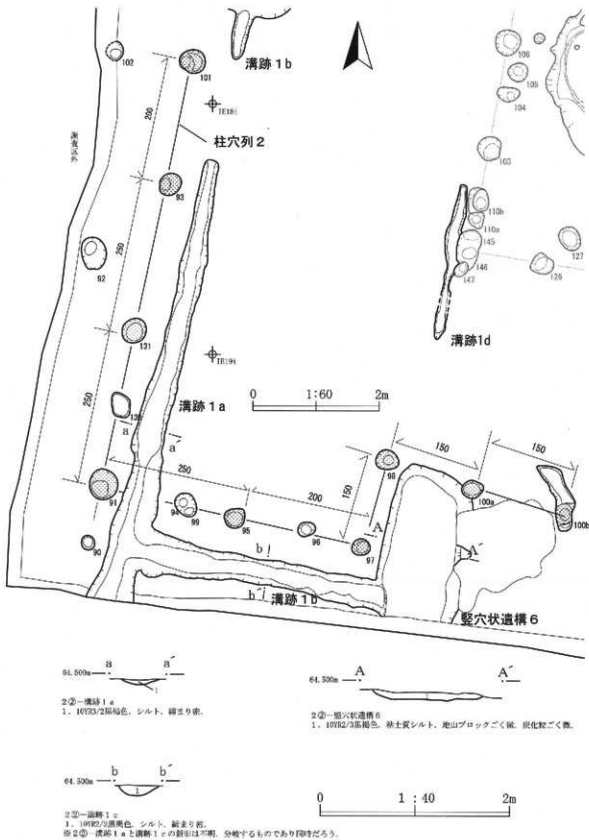
第18図 2②区竪穴状遺構1・2



第19図 2②区竪穴状遺構3・4



第20図 2②区竖穴状遺構 5



第21図 2②区竪穴状遺構6、柱穴列2、溝跡1

第5表 2区柱穴一覧

測線	区	No.	位置	掘り方係主体		掘入物	地山ブロック	戻	柱底径 (cm)	底面レベル (cm)	特殊事情	兼用 (掘>田)	出土遺物			備考
				名	土質								磚瓦	陶器	銅鉄	
上野1	2区	1	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				63.676						
上野1	2区	2	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				63.670						
上野1	2区	3	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	少			12	63.678						
上野1	2区	4	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	少			14	63.700						
上野1	2区	5	I F10g+10h	10YR2/2-2/3	シルト	少			15	63.711						
上野1	2区	6	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				63.680						
上野1	2区	7	I F10h+10	10YR2/2-2/3	シルト	やや多				63.640	建物跡2					
上野1	2区	8	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.705						
上野1	2区	9	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.585						
上野1	2区	10	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	やや多				63.657	建物跡1+2					
上野1	2区	11	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.635						
上野1	2区	12	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.740						
上野1	2区	13	I F10f	10YR2/2-2/3	シルト	やや多				63.634	建物跡1					
上野1	2区	14	I F10f	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.630	建物跡1					
上野1	2区	15	I F10f+12g	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.720						
上野1	2区	16	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.614						
上野1	2区	17	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	微				63.556						
上野1	2区	18	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	やや多				63.655	建物跡1+2					
上野1	2区	19	I F10g+17h	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.576						
上野1	2区	20	I F10g+17h	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.585		<sp29				
上野1	2区	21	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	多				63.620						
上野1	2区	22	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.508						
上野1	2区	23	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	多			14	63.608						
上野1	2区	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2区	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2区	26	I F10f	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.713						
上野1	2区	27	I F10f	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.550	建物跡2					
上野1	2区	28	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	少				63.704						
上野1	2区	29	I F10g+17h	10YR2/2-2/3	シルト	微				63.565	建物跡2	>sp20				
上野1	2区	30	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	なし				63.660	竪穴状遺構1					
上野1	2区	31	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	微				63.640						
上野1	2区	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2区	33	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	微				63.670	建物跡2					
上野1	2区	34	I F10g+17g	10YR2/2-2/3	シルト	多				63.784	竪穴状遺構1					
上野1	2区	35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2区	36	I F10h	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2区	37	I F10g	10YR2/2-2/3	シルト	少			15	63.749						
上野1	2区	38	I F10g+17f	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2区	39	I F10h+18f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				64.010						
上野1	2区	40	I F10f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				64.040						
上野1	2区	41	I F10f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				63.962						
上野1	2区	42	I F10f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				63.967						
上野1	2区	43	I F10h	10YR2/2	シルト	なし				63.725						2区西部より掘った
上野1	2区	44	I F10h	10YR2/2	シルト	なし				63.730						2区西部より掘った
上野1	2区	45	I F10g	10YR2/2	シルト	ごく微				63.590						2区西部より掘った
上野1	2区	46	I F10g	10YR2/2	シルト	ごく微				63.598						
上野1	2区	47	I F10h	10YR2/2	シルト	少				63.576						
上野1	2区	48	I F10h+15	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			16	63.832	竪穴状遺構2					柱材跡
上野1	2区	49	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			16	63.550	竪穴状遺構2					柱材跡
上野1	2区	50	I F10h+16	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				63.618	竪穴状遺構2					
上野1	2区	51	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	微			14	63.680						掘り方係1
上野1	2区	52	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	微			16	63.716						掘り方係1
上野1	2区	53	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	微			16	63.366	竪穴状遺構2					柱材跡
上野1	2区	54	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	微			16	63.674	竪穴状遺構2					柱材跡
上野1	2区	55	I F10h	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微				63.782						
上野1	2区	56	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2区	57	I F10K	10YR2/2	シルト	—	—	—	—	63.525						
上野1	2区	58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

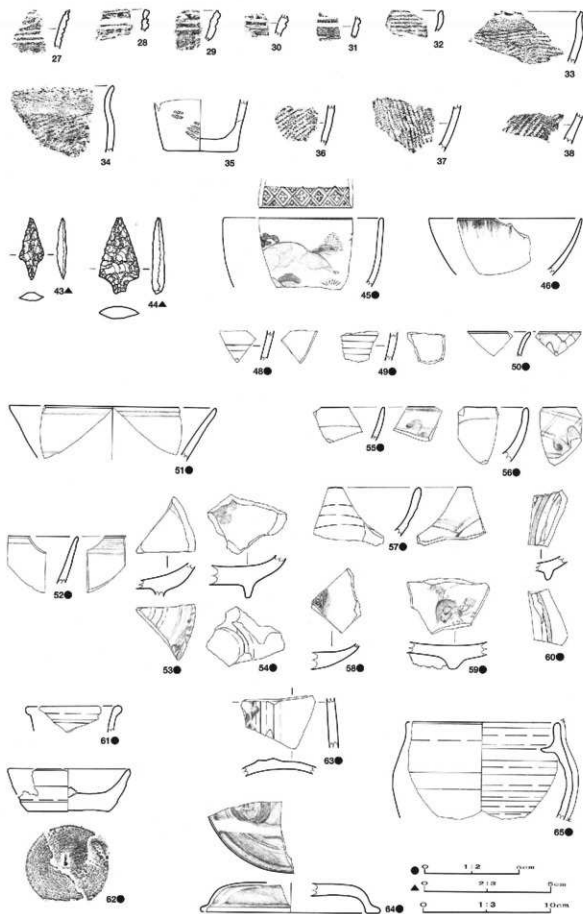
遺跡	区	No.	位置	埋り方遺土主体土		遺入物	柱礎径 径	底面レベル (cm)	構築時期	重複 (配>旧)	出土遺物			備考		
				色質	土質						地山ブロック	埴輪	瓦		写真	
上野1	27	59	F19	10YR/2	シルト	大瓦			63.288					建物跡3		
上野1	28	60	F14+15	10YR/2	シルト	ごみ			63.822					建物跡3		
上野1	29	61	F19	10YR/2-2/3	シルト	大瓦	16		63.358					埋戻め石有		
上野1	29	62	F14a	10YR/2-2/3	シルト	少			63.390					建物跡3		
上野1	29	63	F15m	10YR/2-2/3	シルト	少			63.230					埋戻め石有		
上野1	29	64	F14a	10YR/2-2/3	シルト	少			63.380							
上野1	29	65	F17+17b	10YR/2-2/3	シルト	少			63.472		<pp6	縄文土器	--	--	着面の石有	
上野1	29	66	F17h	10YR/2-2/3	シルト	瓦			63.775		>pp6				柱材残、埋戻め石有	
上野1	29	67	F14	10YR/2-2/3	シルト	瓦			63.603							
上野1	29	68	F19	10YR/2-2/3	シルト	少			63.222							
上野1	29	69	F14	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			63.593							
上野1	29	70	F18a	10YR/2	シルト	ごみ			63.448							
上野1	29	71	F14		シルト				65.500						古1中心	
上野1	29	72	F14		シルト				65.500				24-71		第12期参跡	
上野1	29	73	F19g	10YR/2-2/3	シルト	やや多			63.873						第12期参跡	
上野1	29	74	F17g	10YR/2	シルト	多			63.538				石器	--	--	埋戻め石有
上野1	29	75	F17f	10YR/2	シルト	ごみ			63.630							埋戻め石有
上野1	29	76	F18f	10YR/2	シルト	ごみ			64.010							埋戻め石有
上野1	29	77	F18b-17f	10YR/2	シルト	多			63.825							埋戻め石有
上野1	29	78	F18g	10YR/2	シルト	ごみ			63.690							埋戻め石有
上野1	29	79	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	埋戻め石有
上野1	29	80	F18g	10YR/2	シルト	少			63.801							
上野1	29	81	F18g	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			63.802							埋戻め石有
上野1	29	82	F17h	10YR/2-2/3	シルト	少	16		63.804		<pp32					
上野1	29	83	F17h	10YR/2	シルト	ごみ			63.780							
上野1	29	84	F18	10YR/2	シルト	少			63.764							
上野1	29	85	F18	10YR/2	シルト	ごみ	○		63.664							
上野1	29	86	F18+15	10YR/2	シルト	瓦			63.776							縄文土器
上野1	29	87	F14c	10YR/2	シルト	隙			63.794							
上野1	29	88	F14c	10YR/2	シルト	少			63.740							
上野1	29	89	F14c	10YR/2	シルト	ごみ			63.772							
上野1	29	90	F18a	10YR/2	シルト	ごみ			63.718							
上野1	29	91	F18a	10YR/2	シルト	やや多			63.685							
上野1	29	92	F18a	10YR/2	シルト	ごみ			63.730							
上野1	29	93	F18a	10YR/2	シルト	ごみ			63.620							
上野1	29	94	F18a	10YR/2-2/3	シルト	隙			63.668							
上野1	29	95	F18	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			63.370							建物跡3
上野1	29	96	F18	10YR/2	シルト	隙			63.528							
上野1	29	97	F19	10YR/2	シルト	ごみ			63.416		<pp6					
上野1	29	98	F18	10YR/2	シルト	ごみ			63.580		>pp7					
上野1	29	99	F13m	10YR/2-2/3	シルト	少			63.700							
上野1	29	100	F18m	10YR/2	シルト	隙			63.307							
上野1	29	101	F15m-16m	10YR/1-2/2	シルト	ごみ			63.654							
上野1	29	102	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	29	103	F15m-15n	10YR/2	シルト	少			63.800							
上野1	29	104	F14m	10YR/2	シルト	ごみ			63.510							埋戻め石?
上野1	29	105	F14m	10YR/2	シルト	多			63.623							
上野1	29	106	F18g	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			63.594							
上野1	29	107	F18	10YR/2	シルト	隙			63.480							
上野1	29	108	F17g-18g	10YR/2-2/3	シルト	瓦	8		63.825							埋戻め石有
上野1	29	109	F17g	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			65.500							埋戻め石有
上野1	29	110	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	29	111	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	29	112	F18b	10YR/1	シルト	ごみ			63.670		>pp13					
上野1	29	113	F18	10YR/2	シルト	瓦			63.618		<pp12					
上野1	29	114	F17f	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			64.051							埋戻め石有
上野1	29	115	F17f	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			63.975							埋戻め石有
上野1	29	116	F17f	10YR/2-2/3	シルト	ごみ			63.974							
上野1	29	117	F17g-17g	10YR/2	シルト	ごみ			65.500							埋戻め石有

IV 検出遺構と出土遺物

遺跡	区	No.	位置	掘り方掘土主成分		混入物	検出層	埋没レベル (cm)	埋没深さ	遺物	遺物 (番号)	出土遺物			備考
				色質	土質							種類	形状	写真	
上野1	2①	118	F17g	10YR2/2-2/3	シルト	葉	45.500								
上野1	2②	119	F16g	10YR2/2-2/3	シルト	少		63.877				>2①埋穴状遺構1			
上野1	2③	120	F16g	10YR2/2-2/3	シルト	少		63.545	遺物群1						埋戻の石有
上野1	2④	121	F15s	10YR2/1-2/2	シルト	微		63.842							
上野1	2⑤	122	F15s	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微		63.808							
上野1	2⑥	123	F14a	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微		63.835							
上野1	2⑦	124	F16s	10YR2/2-2/3	シルト	大量		63.717							
上野1	2⑧	125	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2⑨	126	F14a	10YR2/2-2/3	シルト	微		63.485					>ap130		
上野1	2⑩	127	F16b	10YR2/1	シルト	ごく微		63.832	遺物群2				>ap128		
上野1	2⑪	128	F17f	10YR2/1	シルト	ごく微		63.695					<Cap127		
上野1	2⑫	129	F16s	10YR2/1-2/1	シルト	微		63.807	遺物群2						
上野1	2⑬	130	F14a	10YR2/2-2/3	シルト	葉		63.570	遺物群2				<Cap126		
上野1	2⑭	131	F16b	10YR2/1-2/1	シルト	少		63.218	遺物群3						
上野1	2⑮	132	F15m+18m	10YR2/1-2/1	シルト	多	O	63.166					>2①埋穴状遺構3		埋戻の石有
上野1	2⑯	133	F16s	10YR2/1-2/1	シルト	少		63.546					>2①埋穴状遺構2		
上野1	2⑰	134	F16m	10YR2/1-2/1	シルト	ごく微		63.834					>2①埋穴状遺構1		
上野1	2⑱	135	F14m+15m	10YR2/1-2/1	シルト	多		63.270	遺物群3						
上野1	2⑲	136	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2⑳	137	F15m	10YR2/2	シルト	ごく微		63.845					>ap138		
上野1	2㉑	138	F15m	10YR2/2	シルト	ごく微		63.635					<Cap137		
上野1	2㉒	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㉓	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㉔	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㉕	4	F16a	10YR2/1-2/2	シルト	なし		63.982							
上野1	2㉖	5	F19a	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.058							破片
上野1	2㉗	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㉘	7	F17a	10YR2/1-2/2	シルト	微		64.205							
上野1	2㉙	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㉚	9	F18y	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.137							漆 薄ち込み?
上野1	2㉛	10	F18y	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.282							漆 薄ち込み?
上野1	2㉜	11	F18y	10YR2/1-2/1	シルト	ごく微		64.104	遺物群2						
上野1	2㉝	12	F18y	10YR2/1	シルト	ごく微		64.100							底面 柱穴φ8mm
上野1	2㉞	13	F18y	10YR2/1	シルト	ごく微		64.102							底面 柱穴φ12mm
上野1	2㉟	14	F18y	10YR2/1	シルト	ごく微		64.144							底面 柱穴φ10mm
上野1	2㊱	15	F18y	10YR2/2	シルト	なし		64.152	遺物群2						
上野1	2㊲	16	F17y	10YR2/1-2/2	シルト	微		64.174							
上野1	2㊳	17	F17y	10YR2/1-2/2	シルト	微		64.177	遺物群2						
上野1	2㊴	18	F17y	10YR2/1-2/1	シルト	微		64.138	遺物群2						
上野1	2㊵	19	F17a	10YR2/1-2/1	シルト	堆山層少		63.988							
上野1	2㊶	20	F16a+17a	10YR2/1-2/2	シルト	少		63.925	遺物群1a						
上野1	2㊷	21	F18y	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.362							底面 柱穴φ8mm
上野1	2㊸	22	F18y	10YR2/1-2/2	シルト	なし		64.250							底面 柱穴φ10mm
上野1	2㊹	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㊺	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㊻	25	F16a	10YR2/1-2/2	シルト	少		63.970	遺物群1b						
上野1	2㊼	26	F16a	10YR2/1-2/2	シルト	少		63.676							
上野1	2㊽	27	F16a	10YR2/1-2/2	シルト	少		64.045	遺物群1b						
上野1	2㊾	28	F15a+16a	10YR2/1-2/2	シルト	少		63.899	遺物群1a						
上野1	2㊿	29	F15a	10YR2/1-2/2	シルト	少		63.919	遺物群1b						
上野1	2㉀	30	F16a	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.178							坑穴?
上野1	2㉁	31	F18y	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.264							
上野1	2㉂	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野1	2㉃	33	F18y	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.208							
上野1	2㉄	34	F18y	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.212							
上野1	2㉅	35	F18y	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.250							
上野1	2㉆	36	F17y	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.221					<ap137		
上野1	2㉇	37	F17y	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.208					>ap136		
上野1	2㉈	38	F17y	10YR2/2-2/3	シルト	少	18	64.174	遺物群2						

発跡区	No.	位置	掘り方遺土主体土		出人物 地山ブロック	柱礎径 寸法	埋戻レベル (cm)	母体遺構 埋戻レベル (cm)	遺構 (新>旧)	出土遺物			備考
			巻居	土質						瓦	瓦	瓦	
上野1	22	39	E16a-E16y	10YR3/1-2/2	シルト	ごく微		63.932	遺物跡1a				
上野1	22	40	E16a-E16y	10YR3/1-2/2	シルト	少		64.082	遺物跡1b				
上野1	22	41	E17y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.137	柱穴跡1				
上野1	22	42	E17x	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.166	遺物跡2				
上野1	22	42	E18a-E18y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.182					
上野1	22	44	E18y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.148	柱穴跡1				
上野1	22	45	E18y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.303					
上野1	22	46	E18y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.102	柱穴跡1				
上野1	22	47	E18a-E18y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.640	柱穴跡1				
上野1	22	46	E18x	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.135	遺物跡2				
上野1	22	49	E18x	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.135					
上野1	22	50	E18x	10YR3/1-2/1	シルト	少		64.010					
上野1	22	51	E18a	10YR3/1-2/1	シルト	なし		63.885	柱穴跡1				
上野1	22	52	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	53	E18a-E18x	10YR3/1-2/1	シルト	微		63.874	柱穴跡1				
上野1	22	54	E18a	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.136					
上野1	22	55	E18a	10YR3/1-2/1	シルト	少		64.133					
上野1	22	56	E18a	10YR3/1-2/1	シルト	少		63.940	柱穴跡1				
上野1	22	57	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	58	E18a	10YR3/1-2/2	なし	なし		64.122					
上野1	22	56	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	60	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	61	E18a	10YR3/1-2/2	シルト	なし		64.010					
上野1	22	62	E19a	10YR3/1-2/2	シルト	微		63.992					
上野1	22	63	E19a	10YR3/1-2/2	シルト	少		63.870					
上野1	22	64	E19a	10YR3/1-2/1	シルト	なし		63.900					
上野1	22	65	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	66	F15a	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微		63.892					
上野1	22	67	F15a	10YR2/2-2/3	シルト	微		63.908	遺物跡1a				
上野1	22	68	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	66	F15a	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微		64.010					地山砂-微
上野1	22	70	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	71	E16y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.085					地山砂
上野1	22	72	E16y	10YR3/1-2/1	シルト	微		64.096					地山砂
上野1	22	73	E16y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微		63.872	遺物跡1a				地山砂-微
上野1	22	74	E18y-E18y	10YR3/1-2/2	シルト	ごく微		64.068					地山砂-微
上野1	22	75	E18y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微		63.785	遺物跡1a				地山砂-微
上野1	22	76	E18y	10YR3/1-2/1	シルト	微		63.882	遺物跡1a				地山砂-微
上野1	22	77	E18x	10YR2/2	シルト	ごく微		64.145					地山砂-微
上野1	22	76	E18c-E18x	10YR3/1-2/1	シルト	大量		64.088					
上野1	22	79	E18x	10YR2/2	シルト	ごく微		64.180					縄文土器
上野1	22	80	E17y	10YR3/1-2/1	シルト	少		64.084					地山砂
上野1	22	81	E18y	10YR2/1-2/2	シルト	ごく微		63.896	遺物跡1b				地山砂-微
上野1	22	82	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	83	E17x	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微		63.887					>pp10
上野1	22	84	E18a	10YR3/1-2/1	シルト	少		64.153					
上野1	22	85	E18a	10YR3/1-2/1	シルト	少		64.088					
上野1	22	86	E17c-E17y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微		63.871	遺物跡1b				地山砂
上野1	22	87	E18x	10YR2/1-2/2	シルト	少		64.128					
上野1	22	88	E17y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微		64.186					
上野1	22	88	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--
上野1	22	90	E19a	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.043					
上野1	22	91	E19a	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.046	柱穴跡2				
上野1	22	92	E18x	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.080					
上野1	22	93	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.007	柱穴跡2				
上野1	22	94	E19a	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.201					>pp10
上野1	22	95	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.330	柱穴跡3				
上野1	22	96	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.184					
上野1	22	97	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.154					

測線	区	No.	位置	方形方土主成分		混入物		柱状径 (cm)	底面レベル (m)	構築造機	管壁 (新>旧)	出土遺物			備考
				色相	土質	地山ブロック	灰					種類	図版	写真	
上野1	2区	88	E19	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.071						
上野1	2区	89	E19a	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.178		<pp84				
上野1	2区	100	E19a-E19b	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.955			柱穴列2			
上野1	2区	101	E17a	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.111			柱穴列2			
上野1	2区	102	E17a	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.171			柱穴列2			埋戻石有り
上野1	2区	103	E17a	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.956			竪穴状遺構5			
上野1	2区	104	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.200						
上野1	2区	105	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.222						
上野1	2区	106	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.970			竪穴状遺構5			
上野1	2区	107	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.278						
上野1	2区	108	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.140						
上野1	2区	109	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.060						
上野1	2区	110	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.012						
上野1	2区	111	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.045			竪穴状遺構5			
上野1	2区	112	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.229						
上野1	2区	113	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	少	18		63.975		<pp129				
上野1	2区	114	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.094			竪穴状遺構5			
上野1	2区	115	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.240						
上野1	2区	116	E17c	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.322						
上野1	2区	117	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.308						
上野1	2区	118	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.985			竪穴状遺構5			
上野1	2区	119	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.119						
上野1	2区	120	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.012			竪穴状遺構5			
上野1	2区	121	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.153						
上野1	2区	122	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.011						
上野1	2区	123	E18a-E19a-20a	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.140						土塊?
上野1	2区	124	E19a	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.121						
上野1	2区	125	E19a	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.952						
上野1	2区	126	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.196						
上野1	2区	127	E18a	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.115						
上野1	2区	128	E18a	10YR2/3	シルト	少			64.064						
上野1	2区	129	E17c	10YR2/3	シルト	少	18		63.975		>pp113				
上野1	2区	130	E18a	10YR2/3	シルト	少			64.421						
上野1	2区	131	E18a	10YR2/3	シルト	少			64.078			柱穴列2			
上野1	2区	132	E17c	10YR2/3	シルト	なし			64.300						土塊?
上野1	2区	133	E17c	10YR2/3	シルト	微	16		64.045						
上野1	2区	134	E17c	10YR2/3	シルト	なし			64.294						
上野1	2区	135	E17c-E17a	10YR2/3	シルト	微	18		63.993						
上野1	2区	136	E19a	10YR2/3	シルト	少			64.245						
上野1	2区	137	E18a	10YR2/3	シルト	少	15		64.605			竪穴状遺構5			
上野1	2区	138	E18a	10YR2/3	シルト	少			64.224						
上野1	2区	139	E17a	10YR2/3	シルト	少			64.214		<pp140, Cpp144				
上野1	2区	140	E17a	10YR2/3	シルト	微			64.193						
上野1	2区	141	E17a	10YR2/3	シルト	地山砂 少			64.226						
上野1	2区	142	E17a	10YR2/3	シルト	地山砂 少			63.999						
上野1	2区	143	E17c	10YR2/3	シルト	微	12		63.990			竪穴状遺構5			
上野1	2区	144	E17a	10YR2/3	シルト	少	15		64.151		>pp145, pp138				
上野1	2区	145	E17a	10YR2/3	シルト	微			64.268		<pp144, >pp139				
上野1	2区	146	E18a-E18a	10YR2/3	シルト	多	15		64.006		>pp147				
上野1	2区	147	E18a-E18a	10YR2/3	シルト	微			64.040		>pp146, Cpp146				
上野1	2区	148	E18a	10YR2/3	シルト	ごく微			64.188		<pp147				
上野1	2区	149	E19a	10YR2/3	シルト	なし			64.135						



第22図 2区出土遺物(1)

(3) 出土遺物 (第22~24図、写真図版16~18)

①縄文土器

2区では2①区において柱穴や堅穴状遺構、溝跡から縄文土器が若干出土している。また、2①区東端のIF15m・nグリッドの風倒木痕から比較的まとまって縄文土器が出土したことから、2①区の東側調査区外に遺物包含層が残っている可能性がある。

28は柱穴埋上から出土したもので、変形工字文が施されていたものと思われる。30・19・20・23の精製土器や31・32の粗製土器も28と近い時期のものと考えられる。

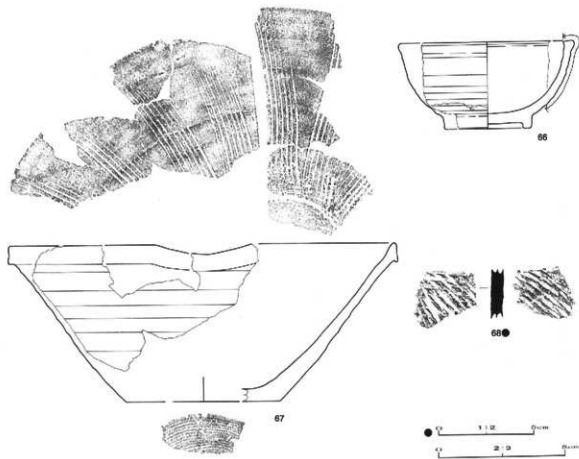
また2②区の東側でも極僅かに縄文土器が出土したが、摩滅がひどく、特徴を把握できなかった。

②石器

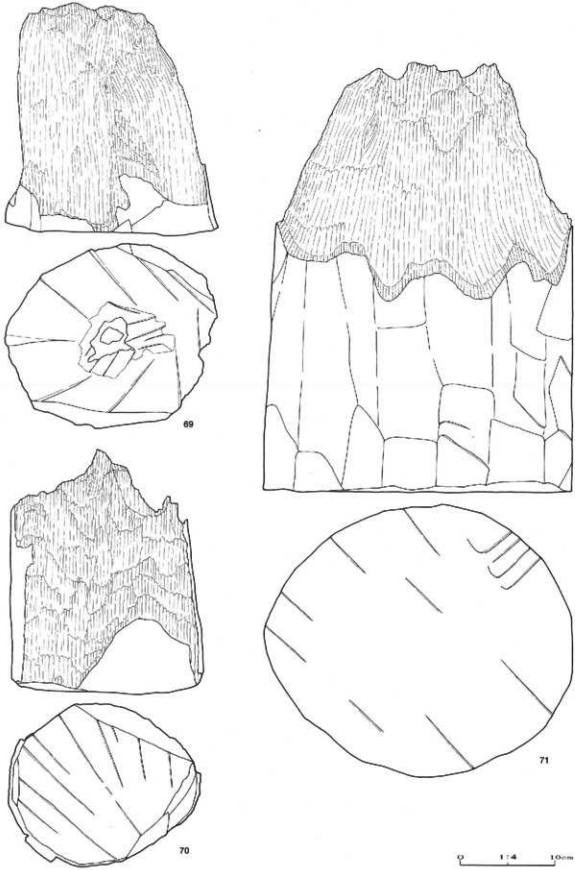
石器は、石鏃が2点出土した。

③陶磁器

碗8点、皿7点、徳利2点、灯明皿1点、花器1点、蓋1点、急須1点、鉢1点、挿鉢1点が出土した。時期は18世紀後半から19世紀初頭のもものが中心である。その他、須恵器が1点出土している。



第23図 2区出土遺物 (2)



第24図 2区出土遺物 (3)

第6表 2区出土遺物一覽

編號番号	収No	区	出土地点・遺構名	種類	部位	最大径	高さ	底径	地文	特徴	図録番号	写真図版
27	28	2①	pp06	鉢	腰部	—	—	—	—	寛中文字文?	22-27	16-27
28	30	2①	表土一括	鉢	口縁部	—	—	—	不明	文様2条、内面文様1条	22-28	16-28
29	19	2①	2①型穴状遺構2	鉢	口縁部	—	—	—	不明	文様2条、内面文様1条	22-29	16-29
30	20	2①	型穴状遺構3	不明	口縁部付近	—	—	—	無文	文様1条	22-30	16-30
31	23	2①	pp04	不明	口縁部付近	—	—	—	不明	文様3条	22-31	16-31
32	26	2①	pp08	不明	口縁部	—	—	—	不明	文様1条	22-32	16-32
33	31	2①	表土一括	鉢	口縁部	—	—	—	LR	小波状口縁	22-33	16-33
34	32	2①	表土一括	鉢	口縁部	—	—	—	LR	小波状口縁、口縁5半外反	22-34	16-34
35	1	2①	IF15n	鉢	底部	+7.1	4.1	5.7	LR	—	22-35	16-35
36	18	2①	2①型穴状遺構1	鉢	腰部	—	—	—	LR	—	22-36	16-36
37	22	2①	pp09	不明	鉢部	—	—	—	LR	—	22-37	16-37
38	24	2①	pp05	不明	腰部	—	—	—	LR	—	22-38	16-38
39	21	2①	溝1	鉢?	口縁部	—	—	—	不明	口唇刻み、内面文様1条	不明載	不明載
40	25	2①	pp07	不明	腰部	—	—	—	無文?	—	不明載	不明載
41	27	2①	pp10	不明	腰部	—	—	—	無文	—	不明載	不明載
42	29	2①	pp120	不明	腰部	—	—	—	無文	—	不明載	不明載

編號番号	収No	区	出土地点・遺構名	長さ	幅	厚	重量	質地	石質	産地	図録番号	写真図版
43	10	2①	表土一括	2.45	0.95	0.40	0.6	石質	頁岩	奥羽山脈、新生代前期第三紀	22-43	19-43
44	11	2②	pp14B	2.05	1.60	0.50	2.0	石質	頁岩	奥羽山脈、新生代前期第三紀	22-44	19-44

編號番号	収No	区	出土地点・遺構名	種類	部位	最大径	高さ	底径	産地	年代	図録番号	写真図版
45	52	2①	2①型穴状遺構1	碗	口縁部	8.4	(3.8)	—	不明	(明治以前)	22-45	16-45
46	22	2②	2②型穴状遺構2	碗	口縁部	(8)8.0	(3.0)	—	不明	明治以降	22-46	16-46
47	23	2②	2②型穴状遺構2	皿	口縁部	—	—	—	肥前	18c	不明載	不明載
48	24	2②	2②型穴状遺構3	徳利	腰部	—	—	—	肥前?	時期不明	22-48	16-48
49	20	2②	pp8	碗	鉢部	—	—	—	在地	時期不明	22-49	16-49
50	21	2②	pp24	碗	口縁部	—	—	—	不明	18c以降	22-50	16-50
51	7	2②	表土一括	碗	口縁部	(8)10.8	(2.8)	—	不明	18c後半~19c初頭?	22-51	16-51
52	13	2②	表土一括	碗	口縁部	—	—	—	肥前	18c後半~19c初頭	22-52	16-52
53	9	2②	表土一括	碗	底部	—	—	—	瀬戸	19c前半	22-53	16-53
54	18	2②	表土一括	碗	底部	—	—	—	肥前	18(17c)-毛入込?	22-54	16-54
55	6	2②	表土一括	皿	腰部	—	—	—	肥前?	18c後半~19c初頭?	22-55	16-55
56	4	2②	表土一括	皿	口縁部	—	—	—	肥前	18c後半~19c初頭?	22-56	16-56
57	3	2②	表土一括	皿	腰部	—	—	—	肥前	18c後半~19c初頭?	22-57	16-57
58	11	2②	表土一括	皿	腰部	—	—	—	在地	19c中~(明治?)	22-58	16-58
59	1	2②	表土一括	皿	底部	—	—	—	肥前	18c後半	22-59	16-59
60	10	2②	表土一括	皿	底部	—	—	—	在地	18c以降	22-60	16-60
61	8	2②	表土一括	徳利	口縁部	185.0	(14)	—	在地	時期不明	22-61	16-61
62	16	2②	表土一括	灯明皿	—	189.4	2.3	4.3	在地	時期不明	22-62	16-62
63	5	2②	表土一括	花器	腰部	—	—	—	瀬戸?	18c後半~19c初頭?	22-63	16-63
64	12	2②	表土一括	盃	—	189.4	(1.8)	—	在地	19c中~(明治?)	22-64	16-64
65	2	2②	表土一括	急須	口縁部	(18)9.4	(8.2)	—	在地	18c以降	22-65	16-65
66	14	2②	表土一括	鉢	—	(18)13.8	6.9	(18)8.8	在地	18c以降	22-66	16-66
67	17	2②	表土一括	磁鉢	—	(18)30.5	12.5	(18)12.0	在地	時期不明	22-67	17-67
68	19	2②	表土一括	須臾器	腰部	—	—	—	—	—	22-68	17-67

編號番号	収No	区	出土地点・遺構名	種類	長さ	幅	厚	樹種	図録番号	写真図版
69	53	2①	pp49	柱材	24.6	32.4	19.6	クワ	22-69	17-69
70	54	2①	pp54	柱材	26.0	21.6	17.2	クワ	22-70	17-70
71	55	2①	pp71	柱材	45.2	32.4	28.6	クワ	22-71	16-71

3 3 区

(1) 概要

検出遺構 柱穴67個、建物跡2棟、溝跡2条。

出土遺物 近世陶磁器片(0.5箱)、縄文時代尖頭器1点。

3区は調査範囲全体の中央部、国道342号の北側に位置し、上野II遺跡の一部に相当する。現況は水田・畑地・宅地の一部となっていた。現在の地境を元に東から順に、宅地の一部を3①区、間に市道をはさんで西側の畑地を3②区、さらに未取得地をはさんで西側の宅地等を3③区とした。

調査の結果、2②区西部から連続する微高地上の3①区からは掘立柱建物跡等の遺構分布が確認された。一方、微高地間の低湿地に相当することがわかった3②区は、風倒木痕が多数分布するのみであった。さらに西側の別の微高地にあたる3③区は遺構の分布が予想されたが、著しい改変を受けており残存する遺構は認められなかった。

(2) 検出遺構

①掘立柱建物跡

3①一建物跡1(第27図、写真図版15)

〔位置〕3①中央部、I E 18 c グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行1000cm、梁間500cmの掘立柱建物跡と思われる。

〔建物方位〕N-82°-W(桁方向)、N-8°-E(梁方向)。

〔構成柱穴〕(主) pp1・4・6・7・15・18・20・24・30・31・36・40。〈可能性有〉 pp2・10・11・38。

〔柱間寸法〕桁方向は200cm、梁方向は100cm・150cm・200cm・300cmなどが用いられている。

〔関連・重複遺構〕東西を溝跡1・2に区画された範囲に位置する。建物跡2とプランが重複するが新旧関係は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものの可能性がある。

3①一建物跡2(第28図、写真図版15)

〔位置〕3①中央部、I E 18 d グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行960cm、梁間570cmの掘立柱建物跡と思われる。

〔建物方位〕N-82°-W(桁方向)、N-5°-E(梁方向)。

〔構成柱穴〕(主) pp8・14・19・25・31・33・42・44。〈可能性有〉 pp5・12・41・46a・48・52・53・62・66・67。

〔柱間寸法〕桁方向は90cm・120cm・250cm、梁方向は390cm・90cmなどが用いられている。

〔関連・重複遺構〕東西を溝跡1・2に区画された範囲に位置する。建物跡1とプランが重複するが新旧関係は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものの可能性がある。

②溝跡

3①一溝跡1(第26図)

〔位置〕3①区東端部、I E 18 f グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕当区東端部を区画するように南北方向に伸展する。検出した全長は800cm、幅は最大75

cmで、両端は調査区外へと延びる。平坦な底面とはほぼ直立する壁面を持ち、南端部は25cmほどに急激に幅を狭めている。走行方向はN-5°-E。

〔埋土と堆積状況〕 混入物の目立たない黒褐色シルト主体の単層である。

〔関連・重複遺構〕 3①-建物跡1及び同2の配置される空間を区画していることから併存した可能性が高い。直接重複する遺構はない。

〔出土遺物〕 なし。

〔遺構の時期〕 不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものの可能性がある。

3①-溝跡2 (第26図、写真図版15)

〔位置〕 3①区西端部、IE18aグリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 当区西端部を区画するように南北方向に伸展する。検出した全長は620cm、幅は最大118cmで、両端は調査区外へと延びる。断面形は浅皿上を呈し、壁面は緩やかに立ち上がる。走行方向はN-9°-E。

〔埋土と堆積状況〕 混入物の目立たない黒褐色シルト主体の単層である。

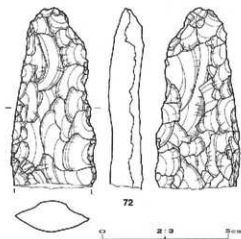
〔関連・重複遺構〕 3①-建物跡1及び同2の配置される空間を区画していることから併存した可能性が高い。直接重複する遺構はない。

〔出土遺物〕

〔遺構の時期〕

(3) 出土遺物 (第25図)

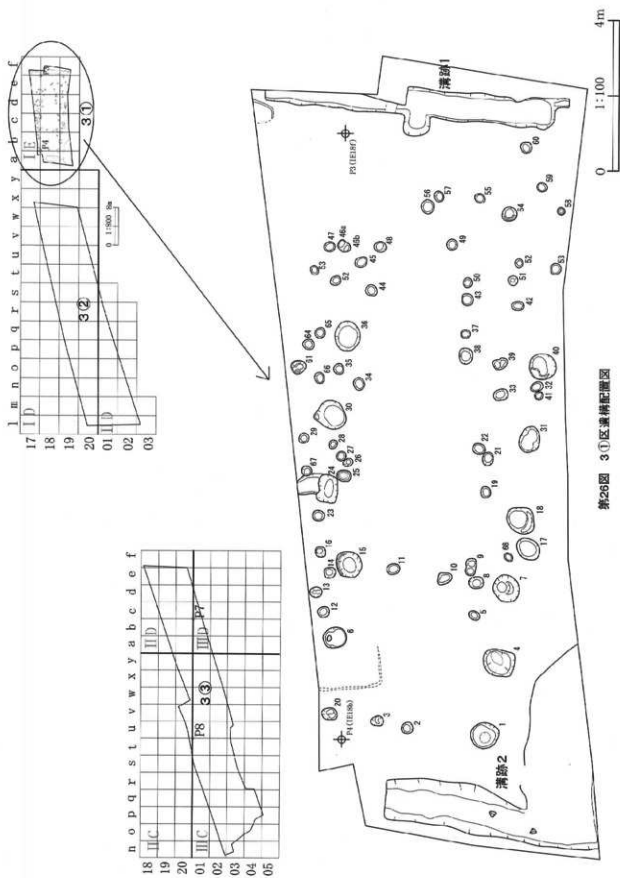
尖頭器が1点出土した。



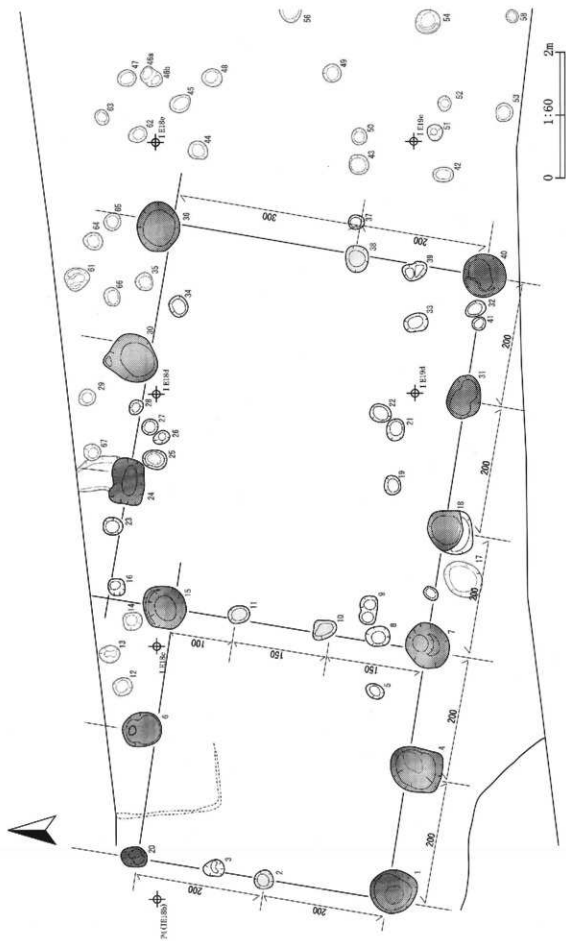
第25図 3区出土遺物

第7表 3区出土遺物一覧

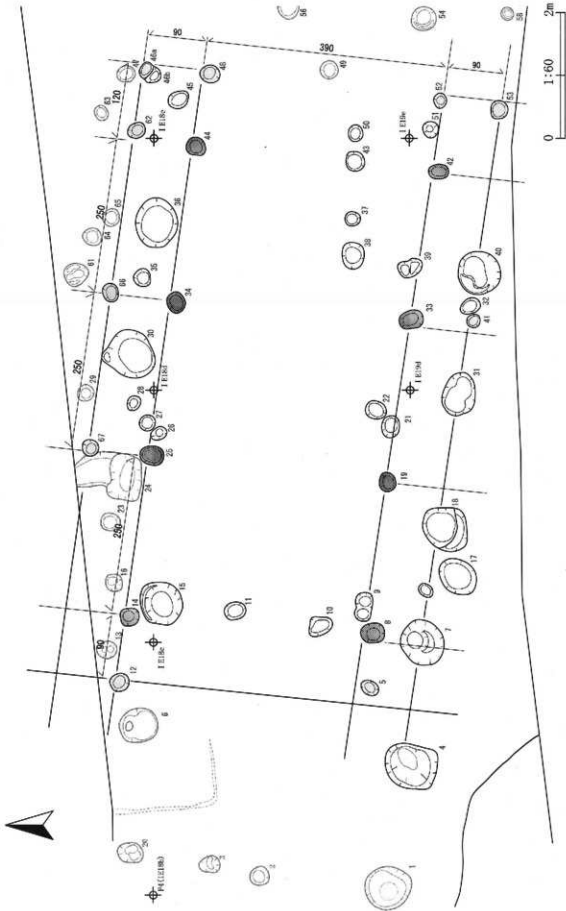
発掘番号	図No'	区	出土地点・遺構名	長	幅	厚	重量	器種	材質	産地
72	18	3①	遺土	7.3	3.4	1.4	35.8	尖頭器	真岩	高野山脈、新生代新第三紀



第26図 3①区遺構配置図



第27图 3①区遺物跡1



第28区 30区遺物跡2

第8表 3①区柱穴一覧

地号	区	No.	位置	掘り方増土主体土		埋入物	特種管	埋深 (cm)	埋深レベル	埋深関係	重埋 (新>旧)	出土遺物		備考
				色層	土質							地山ブロック	種別	
上野Ⅱ	3区	1	I E18b	—	—	—	—	64414	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	2	I E18b	—	—	—	—	64445						
上野Ⅱ	3区	3	I E18b	—	—	—	—	64441						
上野Ⅱ	3区	4	I E48b-19a	—	—	—	—	64425	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	5	I E18a	—	—	—	—	64573						
上野Ⅱ	3区	6	I E17a	—	—	—	—	64420	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	7	I E19a-19a	—	—	—	—	64374	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	8	I E18a	—	—	—	—	64306	遺物群2					
上野Ⅱ	3区	9	I E18a	—	—	—	—	64598						
上野Ⅱ	3区	10	I E18a	—	—	—	—	64492						
上野Ⅱ	3区	11	I E18a	—	—	—	—	64645						
上野Ⅱ	3区	12	I E17a	—	—	—	—	64810						
上野Ⅱ	3区	13	I E17b	—	—	—	—	64549						
上野Ⅱ	3区	14	I E17a	—	—	—	—	64458	遺物群2					
上野Ⅱ	3区	15	I E17a-19a	—	—	—	—	64360	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	16	I E17a	—	—	—	—	64549						
上野Ⅱ	3区	17	I E18a	—	—	—	—	64522						
上野Ⅱ	3区	18	I E18a	—	—	—	—	64412	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	19	I E18a	—	—	—	—	64374	遺物群2					
上野Ⅱ	3区	20	I E17b	—	—	—	—	64567	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	21	I E18a	—	—	—	—	64490						
上野Ⅱ	3区	22	I E18a	—	—	—	—	64458						
上野Ⅱ	3区	23	I E17a	—	—	—	—	64598						
上野Ⅱ	3区	24	I E17a	—	—	—	—	64360	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	25	I E17a-19a	—	—	—	—	64464	遺物群2					
上野Ⅱ	3区	26	I E18a	—	—	—	—	64458						
上野Ⅱ	3区	27	I E17a	—	—	—	—	64490						
上野Ⅱ	3区	28	I E17a	—	—	—	—	64576						
上野Ⅱ	3区	29	I E17a	—	—	—	—	64471						
上野Ⅱ	3区	30	I E17d	—	—	—	—	64272	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	31	I E19a-19a	—	—	—	—	64360	遺物群1-2					
上野Ⅱ	3区	32	I E19d	—	—	—	—	64360						
上野Ⅱ	3区	33	I E19d	—	—	—	—	64419	遺物群2					
上野Ⅱ	3区	34	I E18d	—	—	—	—	64424						
上野Ⅱ	3区	35	I E17a	—	—	—	—	64497						
上野Ⅱ	3区	36	I E17a-19a	—	—	—	—	64346	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	37	I E18d	—	—	—	—	64432						
上野Ⅱ	3区	38	I E18d	—	—	—	—	64427						
上野Ⅱ	3区	39	I E18d-18d	—	—	—	—	64424						
上野Ⅱ	3区	40	I E19d	—	—	—	—	64323	遺物群1					
上野Ⅱ	3区	41	I E19d	—	—	—	—	64465						
上野Ⅱ	3区	42	I E19d	—	—	—	—	64324	遺物群2					
上野Ⅱ	3区	43	I E18d	—	—	—	—	64422						
上野Ⅱ	3区	44	I E18d	—	—	—	—	64369	遺物群2					
上野Ⅱ	3区	45	I E18a	—	—	—	—	64557						
上野Ⅱ	3区	46	I E17a-19a	—	—	—	—	64397						
上野Ⅱ	3区	47	I E17a	—	—	—	—	64360						
上野Ⅱ	3区	48	I E18a	—	—	—	—	64438						
上野Ⅱ	3区	49	I E18a	—	—	—	—	64356						
上野Ⅱ	3区	50	I E18d-18a	—	—	—	—	64445						
上野Ⅱ	3区	51	I E18d-18a	—	—	—	—	64372						
上野Ⅱ	3区	52	I E17a-17a	—	—	—	—	64458						
上野Ⅱ	3区	53	I E17a	—	—	—	—	64389						
上野Ⅱ	3区	54	I E18a	—	—	—	—	64393						
上野Ⅱ	3区	55	I E19a	—	—	—	—	64458						
上野Ⅱ	3区	56	I E18a	—	—	—	—	64316						
上野Ⅱ	3区	57	I E18a	—	—	—	—	64411						
上野Ⅱ	3区	58	I E18a	—	—	—	—	64465						
上野Ⅱ	3区	59	I E18a	—	—	—	—	64465						
上野Ⅱ	3区	60	I E18a	—	—	—	—	64287						
上野Ⅱ	3区	61	I E17d	—	—	—	—	64426						
上野Ⅱ	3区	62	—	—	—	—	—	—	—					
上野Ⅱ	3区	63	—	—	—	—	—	—	—					
上野Ⅱ	3区	64	I E17d	—	—	—	—	64414						
上野Ⅱ	3区	65	I E17d	—	—	—	—	64478						
上野Ⅱ	3区	66	I E17d	—	—	—	—	64431						
上野Ⅱ	3区	67	I E17a	—	—	—	—	64563						

4 4 Ⅹ (第29図、写真図版15)

(1) 概 要

検出遺構 柱穴状ピット63個。

出土遺物 縄文時代中期中葉土器 (小1箱)、石器 (尖頭器・石鏃・石匙等)

4区は調査範囲全体の西部、国道342号の北側に位置し、上野Ⅱ遺跡西端～上野Ⅲ遺跡東部に相当する。現況は水田。現在の地境を元に上野Ⅱ遺跡側を4①区、上野Ⅲ遺跡側を4②区とした。

調査の結果、現在4①区と4②区の境界を流れる用水路の下には沢跡があり、両区は沢に沿って形成された微高地であることがわかった。この沢跡の堆積土層には十和田a降下火山灰に類似する灰白火山灰が広がる面が確認されたが、これに伴う遺構・遺物は検出されなかった。4①区は全体的に攪乱を受けており遺構の分布は認められなかったが、4②区では主に西半部に柱穴状ピットの分布が確認された。火山灰分布面より下位の縄文土器を含む黒褐色土を埋土の主体としていることから縄文時代の遺構と推測される。

(2) 検 出 遺 構

①柱穴状ピット群

4②西半部で検出されたピットは、直径15～40cmで、直径40cm以上のpp3・12・14・19・27・31・53は比較的規模が大きい。しかし、これらのピットの並びを把握することはできず、構成は不明である。

(3) 出 土 遺 物

①石器

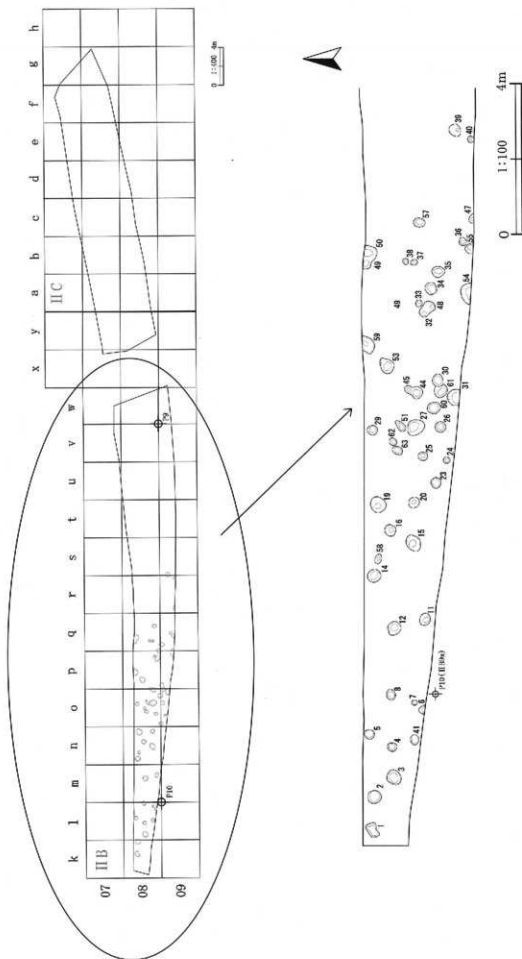
4区では4②区西半の柱穴 (pp28・39) と4②区東半の黒褐色層から縄文土器が出土した。柱穴から出土した土器は極小破片で特徴を把握できなかった。4②区東半から出土したものは第29図で、38・40はキャリパー形の深鉢と思われる。46は上器の突起片で、表裏両面に肉彫的な装飾が施される。43・47は深鉢の口縁部に付けられた大形突起の破片である。これらの遺物は縄文時代中期後葉に位置づけられるものと思われる。

②石器

土器に伴ってフレックが僅かに出土したが、定形石器は出土していない。

第9表 4②区出土遺物一覧

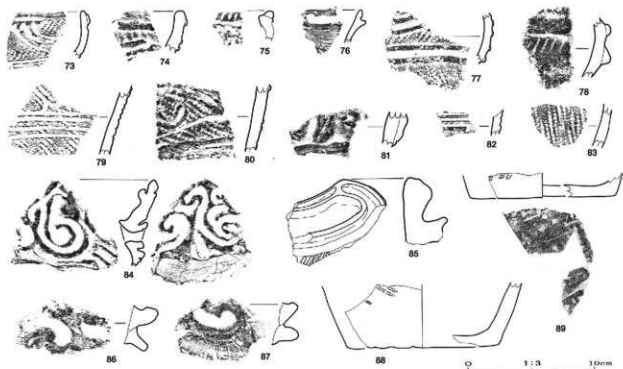
検出番号	個No.	区	出土地点・遺構名	種類	部位	最大径	跡高	厚径	地文	特徴
73	38	4②	瓦層	深鉢	口縁部	—	—	—	LR	隆帯による文様
74	35	4②	瓦層	不明	口縁部	—	—	—	不明	粘土結晶付3本、灰化層付着
75	37	4②	瓦層	不明	口縁部	—	—	—	不明	口唇跡のみ
76	36	4②	瓦層	不明	口縁部	—	—	—	RL?	沈積による隆帯の存出
77	40	4②	瓦層	深鉢	体部	—	—	—	LR	隆帯による文様
78	41	4②	瓦層	深鉢	口縁部付近	—	—	—	不明	隆帯2本との間に柄の跡のみ
79	39	4②	瓦層	深鉢	体部	—	—	—	隆帯	沈積による文様
80	42	4②	瓦層	深鉢	体部	—	—	—	LR	隆帯による文様(渦巻?)
81	45	4②	瓦層	深鉢	口縁部	—	—	—	不明	隆帯による文様
82	34	4②	pp39	不明	口縁部付近	—	—	—	不明	沈積2条
83	33	4②	pp28	不明	体部	—	—	—	LR	—
84	46	4②	瓦層	深鉢	突起	—	—	—	不明	口縁部の粘付突起部分
85	47	4②	瓦層	深鉢	突起	—	—	—	不明	口縁部の粘付突起部分
86	44	4②	瓦層	不明	突起	—	—	—	不明	口縁部の粘付突起部分
87	43	4②	瓦層	不明	突起	—	—	—	不明	口縁部の粘付突起部分
88	2	4②	瓦層	深鉢	底盤	*15.6	(3.1)	*11.8	LR	—
89	48	4②	瓦層	深鉢	底盤	*11.3	(2.0)	*10.7	RL	新代産



第29图 4区全图(上)之4区详细配置图(下)

第10表 4②区柱穴一覽

遺跡	No.	位置	検出時期と土層土	遺構	遺物	柱径(cm)	柱間(m)	基礎構造	遺物 (遺>目)	種類	数量	写真	備考
上野田	1	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.105						地山跡
上野田	2	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.114						地山跡-砂
上野田	3	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.122			縄文土層			地山跡-砂 灰い
上野田	4	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂少	○	45.131						地山跡
上野田	5	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂少		45.155						地山跡 灰い
上野田	6	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.145						地山跡
上野田	7	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.179						地山跡
上野田	8	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.181						地山跡-砂 灰い
上野田	9												
上野田	10												
上野田	11	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.045						地山跡-砂 灰い
上野田	12	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.028						地山跡-砂 灰い
上野田	13												
上野田	14	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.060						地山跡 灰い 柱穴
上野田	15	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.104						地山跡 灰い
上野田	16	E 000a	10Y04/2	砂質シルト	砂多		45.068						地山跡 柱穴
上野田	17												
上野田	18												
上野田	19	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)		44.920						地山跡 灰い 柱穴
上野田	20	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		45.021						地山跡 柱穴
上野田	21												
上野田	22												
上野田	23	E 000a-00b	10Y04/2	シルト	砂少		45.088						地山跡 柱穴
上野田	24	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.110						地山跡
上野田	25	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.050						地山跡 柱穴
上野田	26	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多 浮石市		45.061						地山跡
上野田	27	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多 粘土ブロック		45.022						地山跡 柱穴
上野田	28												
上野田	29	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.061						地山跡 柱穴
上野田	30	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.068						地山跡 柱穴
上野田	31	E 000a-00b	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		44.900		>pp01				地山跡 灰い 柱穴
上野田	32	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)		45.040						地山跡
上野田	33	E 000a	10Y02/1	シルト	砂少		44.945						地山跡
上野田	34	E 000a-00b	10Y02/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)		44.911						地山跡 灰い 柱穴
上野田	35	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.023						地山跡 灰い
上野田	36	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂少		45.029						地山跡
上野田	37	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂少		45.085						地山跡
上野田	38	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.084						地山跡
上野田	39	E 000a-00b	10Y02/1-3/1	シルト	砂少		44.871			縄文土層			地山跡
上野田	40	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂<少		44.870						地山跡 灰い
上野田	41	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.181						灰い
上野田	42												
上野田	43												
上野田	44	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.022						地山跡 灰い
上野田	45	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.125						地山跡 灰い
上野田	46												
上野田	47	E 000a					45.041						
上野田	48	E 000a	10Y04/2	シルト	砂少		45.070						地山跡 灰い
上野田	49	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)		45.049						地山跡 灰い 柱穴(砂)
上野田	50	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)		45.070						地山跡 灰い 柱穴(砂)
上野田	51	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.117						地山跡
上野田	52												
上野田	53	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		44.902						地山跡 灰い 柱穴
上野田	54	E 000a-00b					44.900						
上野田	55	E 000a	10Y02/2	シルト	砂多		45.048						地山跡
上野田	56												
上野田	57	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.019						地山跡
上野田	58	E 000a	10Y04/2	砂質シルト	砂多		45.108						地山跡 小穴(穴)
上野田	59	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多 浮石市		44.931						地山跡 灰い 柱穴
上野田	60	E 000a-00b	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.045						地山跡 柱穴
上野田	61	E 000a	10Y04/2	シルト	砂多		45.066						地山跡 灰い
上野田	62	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.111		<pp30				地山跡 灰い
上野田	63	E 000a	10Y02/1-3/1	シルト	砂多		45.085						地山跡 灰い



第30図 4区出土遺物

5 5 区

(1) 概要

検出遺構 なし。

出土遺物 縄文時代中期土器1袋。

5区は調査範囲全体の西端部、国道342号の南側に位置し、上野Ⅲ遺跡の一部に相当する。現況は造園業関連敷地の一部である。国道対岸の4②区から連続する微高地上面に相当し、段丘縁辺部に位置するため南側は磐井川に面する断崖となっている。

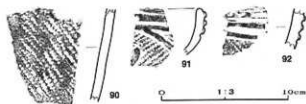
調査の結果、当区は全面的に削平を受けていることがわかり、検出された大小の土坑も精査によって風倒木痕あるいは造園業に伴う植栽痕であることが判明した。

南端部には4②区から連続する黒褐色土層が僅かに残存しており、主にここから縄文時代中期の遺物が出土している。

(2) 出土遺物

①土器

5区からは縄文土器が極少量出土した。91は深鉢の口縁部で、粘土紐隆帯による裝飾がみられる。土器の特徴から、4区②で出土した土器と同じく、縄文時代中期後葉のものと思われる。石器は出土しなかった。



第31図 5区出土遺物

第11表 5区出土遺物一覧

調査番号	図No	区	出土地点・遺跡名	器種	部位	最大径	高さ	底径	地文	特徴	図版番号	写真図版
90	49	5③	黄土	不明	体部	—	—	—	LR		31-91	18-91
91	50	5③	黄土	深鉢	口縁部	—	—	—	LR	隆帯による文様	31-92	18-92
92	81	5③	黄土	深鉢	口縁部付近	—	—	—	FR	波線3条	31-93	18-93

V ま と め

1 遺 構

東から順に隣接している上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡を東西方向に貫く調査区は総延長700mに及び、河岸段丘上に形成された複数の微高地とその間の湿地を細長く横断している。遺構の分布を概観すると微高地の頂部に集中が見られ、調査区東部(上野Ⅰ遺跡東側隣接地～上野Ⅱ遺跡東端部)と調査区西部(上野Ⅱ遺跡西部～上野Ⅲ遺跡東部)の2つの分布域に分けることができる。遺構分布が見られない区域は微高地間を分断する沢跡・低湿地となっており、風倒木痕や近代以降の耕作痕などが検出されるのみであった。

調査区東部の分布域は、「1②区～2②区東端部」と「2②区西端～3①区」の2地点が、建物跡と堅穴状遺構・土坑・溝跡などからなる屋敷跡となっている。これらの帰属年代を示す遺構内出土遺物は極めて少ないが、わずかな出土遺物は18世紀後半～19世紀初頭の所産と見られ、放射性炭素年代測定の結果を併せ考えれば、概ね近世末～明治時代に帰属するものと推測される。なお、同区域からは磨滅が著しく二次的な堆積によるものとみられる縄文時代晩期の上器片が少量出土している。近隣住民によれば1②区に隣接するポンプ場建設時に弥生時代初頭の上器が多量に出土したといい、調査区内の風倒木痕にも比較的多くの土器片が入ることから、本来は当区域に存在した該期の遺構や包含層が、後世の削平によって失われたものと見られる。

一方、調査区西部の分布域では縄文時代中期中葉の土器片を包含する黒褐色土の分布が広くみられ、特に上野Ⅲ遺跡東端部(4②区)ではこれを埋土主体上とする柱穴状ピット群の分布がみられた。住居跡等の構造物を構成する可能性があるが、柱穴配置や遺構の性格は不明である。

2 遺 物

出土した土器の総量は小コンテナ3箱ほどである。1区と4区で出土したものがほとんどで、2区と5区にも若干みられる。1・2区から出土した土器は縄文時代終末期に位置づけられるもので、遺構から出土したものもあるが、全て埋土からの出土であり、遺構の形成時期を示すものではない。いわゆる変形上字文が施された土器もみられたが、全体的に磨滅がひどく、特徴を把握できないものがほとんどである。

4・5区から出土した土器は縄文時代中期中葉に位置づけられるもので、4区では一部柱穴の埋土から出土しているが、ほとんどが遺構外からの出土である。

以下に、上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の各調査区における出土遺物の総重量を示した。

調査区	1区	2区	3区	4区	5区
陶磁器類	0g	2568.0g	3332.5g	313.1g	0g
土器	3737.5g	675.1g	0g	5508.1g	107.7g
石器	1362.0g	556.0g	89.0g	59.4g	0g

3 お わ り に

今回の調査は広大な遺跡範囲のごくわずかな地点を調査したに過ぎないが、遺跡内の微地形や土層堆積状況、遺構・遺物の分布状況など基礎的な情報を得ることができた。事業地内の調査未了箇所については翌年度以降も継続実施される見込みであり、全体の様相がさらに明らかになるものと期待される。県内他地域に比して極めて遺跡調査事例の乏しい当地域において、将来の埋蔵文化財保護・活用に資するものとなれば幸いである。

附編 1 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果報告書 (AMS測定)

上野 I 遺跡

共加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

上野 I 遺跡は、岩手県一関市蔵美町字上野229-1ほかに所在する。

(2) 測定の意義

遺構の帰属年代を特定する。

(3) 測定対象試料

測定対象試料は、2①区竪穴状遺構 1 の床面直上から出土した木炭 (No.1 : IAAA-71786)、2①区竪穴状遺構 2 の床面直上から出土した木炭 (No.2 : IAAA-71787)、合計2点である。

(4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空中で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に行う。

(6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として測る ^{14}C 年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。
複数回の測定値について、 χ^2 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰;パーミル)で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{AS} - {}^{14}\text{AR}) / {}^{14}\text{AR}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{AS} - {}^{13}\text{APDB}) / {}^{13}\text{APDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{AS}$: 試料炭素の ^{14}C 濃度: ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)Sまたは($^{14}\text{C}/^{13}\text{C}$)S

${}^{14}\text{AR}$: 標準現代炭素の ^{14}C 濃度: ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)Rまたは($^{14}\text{C}/^{13}\text{C}$)R

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度(${}^{13}\text{AS} = {}^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、PDB(白亜紀のバレンマイト(矢石)類の化石)の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に[加速器]と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰)であるとしたときの ^{14}C 濃度(${}^{14}\text{AN}$)に換算した上で計算した値である。(1)式の ^{14}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{AN} = {}^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000))^2 \quad ({}^{14}\text{AS} \text{として} {}^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000)) \quad ({}^{14}\text{AS} \text{として} {}^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{AN} - {}^{14}\text{AR}) / {}^{14}\text{AR}] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon)がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} - 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\text{‰})$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age ; yrBP) が次のように計算される。

$$\begin{aligned} T &= -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1] \\ &= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100) \end{aligned}$$

- 5) ^{14}C 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。
- 6) 校正暦年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCalv3.10校正プログラム (Bronk Ransey1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001) を使用した。

(7) 測定結果

^{14}C 年代は、2①区竪穴状遺構1の床面直上から出土した木炭 (No.1 : IAAA-71786) が $100 \pm 30\text{yrBP}$ 、2①区竪穴状遺構2の床面直上から出土した木炭 (No.2 : IAAA-71787) が $160 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年校正年代 ($1\sigma = 68.2\%$) は、No.1が $1690 \sim 1730\text{AD}$ (20.6%)・ $1810 \sim 1920\text{AD}$ (47.6%)、No.2が $1660 \sim 1690\text{AD}$ (13.1%)・ $1720 \sim 1810\text{AD}$ (42.1%)・ $1920 \sim 1950\text{AD}$ (13.0%)である。暦年校正年代では時間幅があるが、江戸時代から明治時代に該当する。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 353-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37 (2) . 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A) , 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43 (2A) . 381-389
- Reimer, P.J., et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

附編 2 樹種同定

上野 I 遺跡より出土した柱材の樹種

吉川純子(古代の森研究舎)

一関市の上野 I 遺跡において、近世とみられる掘立柱建物に残存していた柱根が検出された。当時の建築材利用状況を把握するためこれら柱材の樹種を調査した。柱材からは剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を採取し、封入剤ガムクロラルでプレパラートを作成し、生物顕微鏡で観察、同定を行った。

柱材は、2①区pp49、pp54、pp72の3試料で、いずれもクリと同定された。

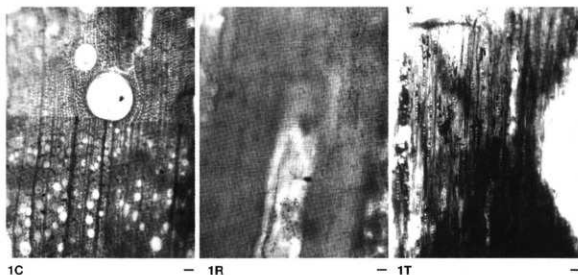
山田(1993)によると、縄文時代以降クリは建築材や杭に多用される傾向があり、関東以西では中世以降建築材の主流は針葉樹材となるが、東北地方ではこの傾向は江戸時代末まで続く。おそらく植生に応じて周辺材を利用していたと考えられる。

以下に同定された樹種の木材解剖学的記載を行う。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) : 年輪の最初に大きな道管が2、3列配列し、その後急に径を減じて小さな道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で、道管内にはチロースが発達する。放射組織は単列で同性である。

引用文献

- 山田昌久 1993 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間-植物関係史、植生史研究特別第1号、植生史研究会、1-244。



図版1 上野 I 遺跡出土柱材の顕微鏡写真
1.クリ C:横断面, R:放射断面, T:接線断面、スケールは0.1mm

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-71786 #2000-1	試料採取場所：岩手県一関市蔵美町字上野229-1 ほか 上野 I 遺跡	Libby Age (yrBP) : 100 ± 30
	試料形態 : 木炭 試料名(番号) : No. 1	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -26.30 ± 0.61 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -12.6 ± 3.4 pMC (%) = 98.74 ± 0.34
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -15.3 ± 3.2 pMC (%) = 98.47 ± 0.32
		Age (yrBP) : 120 ± 30
IAAA-71787 #2000-2	試料採取場所：岩手県一関市蔵美町字上野229-1 ほか 上野 I 遺跡	Libby Age (yrBP) : 160 ± 30
	試料形態 : 木炭 試料名(番号) : No. 2	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -26.50 ± 0.99 $\Delta^{13}\text{C}$ (‰) = -20.0 ± 3.6 pMC (%) = 98.00 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -23.0 ± 3.0 pMC (%) = 97.70 ± 0.30
		Age (yrBP) : 190 ± 20

参考資料：暦年校正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-71786	No. 1	102 ± 27
IAAA-71787	No. 2	162 ± 29

ここに記載するLibby Age (年代値) と誤差は下1桁を丸めない値です。

写 真 图 版



調査区全景 (南→)



調査区全景 (東→)



2②区 (西→)



4①②区 (西→)



3②区 (東→)



3①区重機による表土掘削

写真図版2 調査開始時の状況ほか



1②区柱穴群 (西→)



1②区溝跡1～3 (西→)



2①区全景（西→）



2①区全景（東→）

写真図版 4 2①区全景



2①区建物跡1・2 (東→)



2①区建物跡1 (南→)



2①区建物跡 2 (南→)



2①区建物跡 3 (南東→)



2①区竖穴状遺構 1 (南→)



2①区竖穴状遺構 1 断面 (東→)



2①区竖穴状遺構 1 断面 (南→)



2①区竖穴状遺構 3 (東→)



2①区竖穴状遺構 3 断面 (西→)



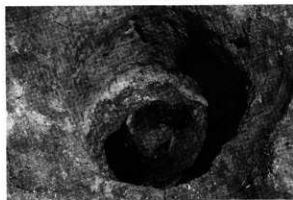
2①区壑穴状遺構 2 (南→)



2①区壑穴状遺構 2 断面 (東→)



2①区壑穴状遺構 2 断面 (南→)



pp49柱材



pp72柱材



2①区溝跡1南辺 断面(東→)



2①区溝跡2 断面(南→)



2①区溝跡1西辺 断面(東→)



2①区溝跡3(東→)



流れ井戸(虎絶は現代)



2①区溝跡3 断面(東→)



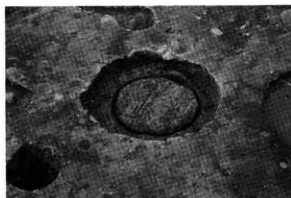
2①区土坑1(奥)・2(南東→)



2①区土坑1 断面(南→)



2①区土坑2 断面(南東→)



2①区土坑1 完掘状況(南→)



調査風景

写真図版10 2①区土坑



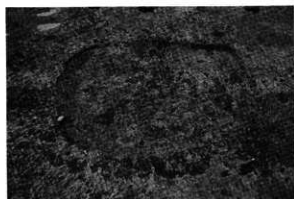
2②区東部全景 (西→)



2②区 建物跡1 (東→)



2②区建物跡2、柱穴列1 (東→)



2②区竪穴状遺構1 (南→)



2②区竪穴状遺構1 断面 (南→)



2②区竪穴状遺構2 (南→)



2②区竪穴状遺構3 (南→)

写真図版12 2②区東部 (2)



2②区西部全景 (東→)



2②区西部西端 溝跡1と柱穴列2 (南→)

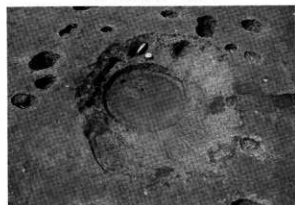
写真図版13 2②区西部 (1)



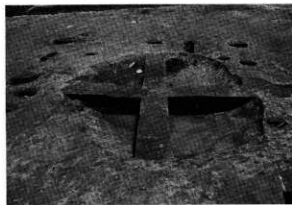
2②区竖穴状遺構 4 (東→)



2②区竖穴状遺構 4 断面 (東→)



2②区竖穴状遺構 5 (南→)



2②区竖穴状遺構 5 断面 (南→)



2②区竖穴状遺構 6 (東→)



2②区竖穴状遺構 6 断面 (南→)



3①区全景 (東→)



4②区全景 (東→)

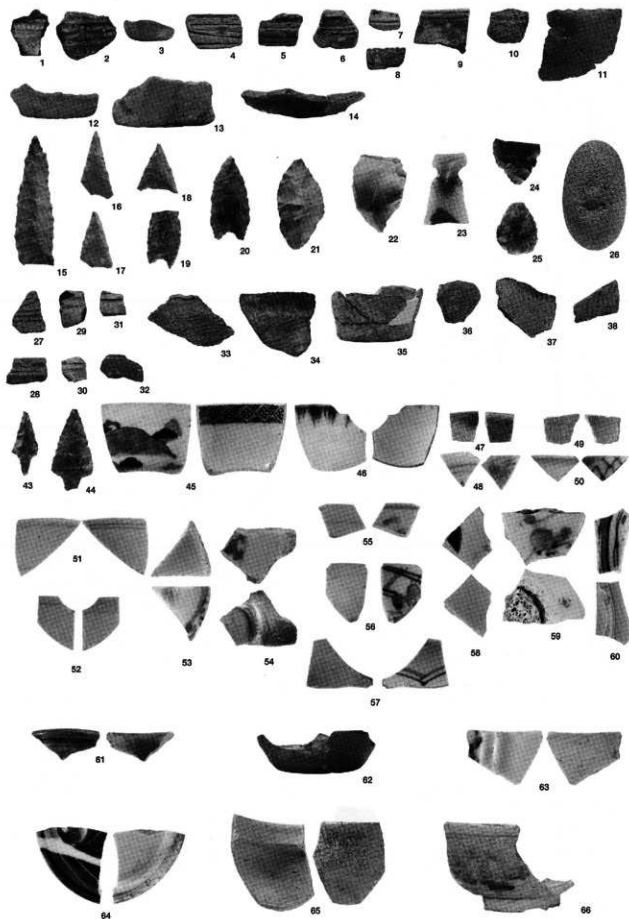


3③区検出状況 (東→)



5③区作業風景 (西→)

写真図版15 3①区、4②区、5③区



写真图版16 1·2区出土遗物



67



67



68



69

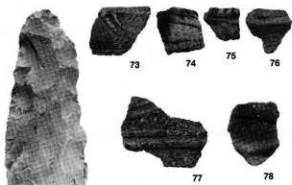


70

写真图版17 2区出土遗物



71



73

74

75

76

77

78

72



79

80

81



82

83



84



85

86



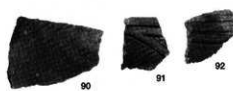
87



88



89



90

91

92

写真図版18 2~5区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	うわの1・2・3いせきはつちようさほうくしょ							
書名	上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書							
副書名	一般国道342号蔵美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第542集							
編著者名	村上 拓・横山寛晴							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2009年2月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上野Ⅰ遺跡 上野Ⅱ遺跡 上野Ⅲ遺跡	岩手県・関市蔵美町字上野229-1 ほか	032093	NE95 -0181 NE95 -0198 NE95 -0186	上野Ⅰ 38度 56分 26秒 上野Ⅱ 38度 56分 24秒 上野Ⅲ 38度 56分 24秒	141度 04分 26秒 141度 04分 14秒 141度 04分 09秒	2007.04.11 ～ 2007.08.30	上野Ⅰ 3,049㎡ 上野Ⅱ 2,081㎡ 上野Ⅲ 1,381㎡	一般国道342号蔵美バイパス道路改築事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上野Ⅰ遺跡	散布地 埋蔵跡	縄文時代 近世～明治	柱穴状ピット 33個 建物跡 5棟 堅穴状遺構 9棟 土坑 2基 溝跡 7条 柱穴列 3列 柱穴 258個	縄文土器(晩期)・石器 陶磁器(近世末～明治)				
上野Ⅱ遺跡	散布地 屋敷跡	縄文時代 近世～明治	なし 建物跡 2棟 溝跡 2条 柱穴 67個	石器 なし				
上野Ⅲ遺跡	散布地	縄文時代	柱穴状ピット 50個	縄文土器				
要約	調査区東部の微高地で、近世末から明治時代に帰属すると推測される建物跡・堅穴状遺構・土坑・溝跡などからなる埋蔵跡が検出された。また調査区最東端と調査区西部で、それぞれ縄文時代晩期と中期の土器が少量出土した。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第542集

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書

一般国道342号巖美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成21年2月24日

発行 平成21年2月27日

編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発行 岩手県南広域振興局一関総合支局土木部

〒021-0803 岩手県一関市竹山町7-5

電話 (0191) 26-1411

(財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印刷 有限会社 内海印刷 盛岡営業所

〒020-0875 岩手県盛岡市清水町8-8-108

電話 (019) 622-0288

